モスクワ・オリンピック問題

「参加」を前提、JOCの意向尊重

日本協会は、4月19日東京での月例常務理事会で、モスクワ・オリンピックの参加問題について協議すでにアジア大陸代表権を握っている男子代表チームを参加させることで意見が一致し、これを前提にJOC（日本オリンピック委員会）の意向を尊重することで今後の事態に対処すると決めた。

日本協会が、モスクワ問題を話し合ったのは初めて。5月11日の全国理事会（東京）で報告が行われる。なお、JOCは5月22日の臨時総会（東京）で結論を出す模様。

4月19日の会議ではIOC（国際オリンピック委員会）や、IHF（国際ハンドボール連盟）が、不参加国の選手を救済するため、いわゆる「個別参加」を適用するような場合、男子代表チームの派遣経費は、日本協会として、最大の努力することも申し合わせた。

しかし「個別参加」の場合、地方公務員や一部の企業から、選手の派遣がストップされた場合は、コーチングスタッフと常務理事会の合同会議を開いて、チーム編成を検討、代表チームの参加を取り消すこともあり得るという重大決議を行った。

このほか、女子の「3大陸代表」となった韓国が不参加となった際の代表チームについて意見が出されたが、IHFは、すでに「3大陸代表」の補欠国をコンゴに決めており、コンゴ棄権の場合は「3大陸」の枠は消失、ポーランドの浮上が確定的で、日本女子チームの〝繰りあげ〟の可能性は、ほとんどないことが明きらかになった（注・「3大陸予選」の3位国・アメリカは、すでに不参加が決定している）。

◇

常務理事会終了後、日本協会・荒川清美理事長は、体協記者クラブで記者会見、次のように語った

「JOCの態度を尊重するという姿勢が、きょうの会議の結論だが、あらゆる困難を排して、JOCが参加に踏み切るよう切望する

「個別参加」の場合、派遣の難しい立ち場の選手の取り扱いは慎重にしたい。

今まで同じように努力してきた選手を置いて、行ける選手だけが参加するというのでは、〝チームスポーツ〟の意味はない。

不参加は、公立高校の教員ばかりではなく、企業チームの選手の場合だってあり得るだろう」

「個人参加」当面見送り

4月24日付の各報道機関が伝えるところによると、ローザンヌ（スイス）で開かれていたIOCとIF（国際競技連盟）の合同会議で、いわゆる「個人参加」は、少なくとも5月24日の国別エントリーがしめ切られるまでは採りあげないことになった。

この結果、日本協会は、あくまで〝正常参加〟でモスクワを目指すことになり、荒川理事長は、4月25日、東ドイツ・中国遠征から帰国した全日本男子チームを、大阪国際空港に出迎え、5月以降の強化日程を予定どおり進行する、と伝えた。

JOC総会などで主張

モスクワ・オリンピック参加競技団体の強化担当コーチ、選手らによる「緊急会議」が4月21日東京渋谷の岸記念体育会館（体協）で行われ、日本協会からは藤原侑強化委員が出席、次のような意見を述べた。

「オリンピックが、スポーツマンにとってすべてではないことは判るが、長い年月をかけ、多くの私生活上の犠牲を払ってきた者たちの夢を、政治が介在して打ちくだくことは、憤りを感じる。

ぜひ、みんなの力で、モスクワオリンピックに参加したい」

◇

JOCの競技団体選出委員こん談会が、4月23日岸記念体育会館で開かれ、日本協会から荒川理事長（JOC常任委員）が出席、次のような意見を述べた。

「IOC憲章にそった環境が一日も早く生まれることを熱望する

しかし、モスクワ大会が開かれる以上、JOCは、参加の方法を考え、選手団を送るべきだ。すでに出場権をもつハンドボールの男子チームは、なんとしても出場したい。」

◇

JOCの臨時総会は、4月26日岸記念体育会館で行われ、日本協会からは荒川理事長が出席、次のような意見を述べた。

「情勢は内外とも流動的だが、スポーツだけ特別な社会といった論議を先行させず、JOCの仕事などを国民に理解してもらい、「参加」のムードを盛りあげたい。

ハンドボールチームは、是非とも参加したいが、最終的にはJOCの決定を尊重する」

『ハンドボール』

55年5月号（第185号）目次

【表紙写真】全日本男女が始動した。写真上は日本男子×東ドイツ第1戦、同下は日本女子×上海戦

【全日本選手団提供】

「ジュニア」の強化を本格化

地域別に研修会

来年12月ポルトガルで開かれる第3回世界男子ジュニア選手権を一つの目標点として、ジュニア強化が本格的なスタートを切った。

世界の有力国が、今日の栄光の座を占めているのは、ジュニア・ナショナルの強化につとめたことが最大因といわれるだけに、日本協会が遅まきながら、この問題へ本腰を入れることになったのは、大きな期待がかけられる。

初年度の今年は、全国を6ブロックに分けて「ジュニア研修会」の名のもとに、有望な若手を集めた強化練習を行ない、そのなかから、さらに数名づつを、中央に呼び寄せて「ジュニア・ナショナル」の母体を作ろうというものである。

また、今年度中に、ブロック別の「スカウト」ともいうべき「日本協会地域強化コーチ」制度を発足させる構想があり、この制度を、今後のジュニア活動の核としたい意向だ。

日本協会が、ジュニア・ナショナルにも、確立した強化路線がしかれ、本格的に取り組まなければならないと決めたのは、2月末の全国会議（理事会、代議員会）。

それから1カ月足らずのうちにスタートを切ったのは、昨秋の第2回世界男子ジュニア選手権（デンマーク、スウェーデン）に出場した日本代表チームが、いかに「順位は二の次」といっても、参加23カ国中の19位という成績におわり、各国が、シニアなみの情熱を注いで、ジュニア強化へ取り組んでいる〝現実〟をまのあたりにしたからにほかならない。

各国は、ジュニア大会が開かれるたびに、適令者を集めてチーム編成するのではなく、常時、ジュニア・ナショナルを持ち、世界選手権をはじめ、各国際トーナメントに勝負をかけている。

また、ジュニアは、当然、シニアと深い関連を持ち、現在、世界のAクラス国のレギュラーの三分の一は、三年前の第1回世界男子ジュニア選手権の出場者であるといわれる。

こうした各国の傾向に比べて、日本のジュニア対策は、あまりにもインスタント。それどころか「ジュニア」そのものの意義などが徹底しない面さえ見受けられるため、強化部長を兼ねる荒川清美理事長が大号令、新年度開始を待ちかねるように、男子強化コーチ群が中心となってスタートを切ったものである。

5月に中央研修会を予定

強化部男子コーチ群の打ち出した「ジュニア強化路線」の最大の特色は、全国にスカウトの目を張りめぐらせ、有望選手を探し出そうとする点だ。

とりあえず今年度は北海道、東北、北信越、関東、東海、西日本（関西、中国、四国、九州）のブロックで、4月から5月上旬にかけて「ジュニア研修会」の名のもとに、第一次選考会ともいうべき強化練習を行ない、強化コーチ群から一～二名のコーチが、各会場へ出向き、有力選手のチェックを行なうこととした。

そのあとで、各コーチの報告をもとに、各ブロックから将来性のある選手を5月末東京に集めて「中央研修会」（仮称）を開く。

これらの選手は、ジュニア担当の木野実強化コーチによれば、一九六〇年（昭35）以降生れによる選手を「世界ジュニア候補」とし、一九五九年（昭34）生れの有望選手は、今夏7月のテラモ国際（後掲）候補選手として数名残すことが予定されている。

女子も近々具体化

日本協会のジュニア対策は、47年度から行われてきた「ヤング全日本」制度があり、現在の全日本主将の津川や土砲・蒲生は、その第一期生、二、三の例外を除いては全日本選手のほとんどが「ヤング」にノミネートされた経験者。

しかし、それらの〝実績〟は、ほとんど机上のもので、毎年の強化合宿（三日間）も、特に大きな目標、目的はなかった。

ところが、IHF（国際ハンドボール連盟）が、ジュニアの世界選手権を公式行事として開設したところから、「ヤング全日本」の存在がクローズアップされ、54年度からは、国際的に発展させるため「ジュニア全日本」と改称されることになった。

その最初の目的であった世界ジュニア選手権で、前述のとおり、各国の充実したジュニア路線を知るところとなり、一気の発展になったものだ。

また、強化筋はもとより全国会議が、ジュニア対策を、日本協会の最大急務とした背景には、アジアにおける日本の独走が、今後、予断を許さなくなった厳しさもかくされている。

荒川理事長は、男子につづいて女子のジュニア路線も、今夏までには確立したい意向である。

55年度男子ジュニアブロック研修会日程

- 北海道　4月1～3日
- 東　北　未定
- 北信越　4月1～3日
- 関　東　5月3～5日
- 東　海　4月26～28日
- 西日本　5月6～8日（関西，中国，四国，九州合同）

今夏「テラモ国際」に出場

日本協会は、今夏7月4日から8日まで、イタリアのテラモ市で開かれる「第8回テラモ国際ユース・トーナメント」に、男女ジュニア・ナショナルを派遣することに決めた。

同トーナメントは、テラモ市のインテラムニア・ハンドボールクラブの主催する年令別ユース大会で、創立当初は、国内に限られていた参加チームが、しだいに国際化、昨夏の第7回大会は17カ国から男女7部門に合わせて120チームが出場する大きな大会になった。

日本チームの編成については、男子は、前掲のブロック研修会で推せんされた満21才以下の選手により、女子は、5月の各地学生リーグ、6月の全日本実業団選手権（名古屋）を〝選考の基準〟としてピックアップすることになる。

財団法人化やや遅れる 5月11日に理事会

日本協会は、5月31日を目指していた財団法人化がやや遅れることを、明らかにした。

日本協会の財団法人発起人会議は、3月31日東京で開かれ「寄付行為」を承認（＝本誌4頁参照）、ただちに法人化手つづきを文部省に対して行ったが、56年度までの事業計画や、理事数などについて再検討を必要とする部分があることが判り、ただちに再申請したが本誌前号既報の5月31日認可は、一～二カ月遅れそうである。

注目の理事数は、日本協会は、最大25名以内を望んでいるが、場合によっては20名程度におさえられることもあり得る。

現行規約の理事数は33名以内で、10名近い削減が必要。

このため、日本協会は、2月の全国理事会を、法人化にともなう一切の決定を設立代表者としての斎藤英四郎会長に一任、最終会議としていたが、理事数問題やモスクワ問題が起きたこともあり、5月11日東京渋谷の岸記念体育会館で、全国理事会（現行）を開く。

大阪、名古屋で選考試合
五輪代表の発表日は未定

日本協会は1頁所報のとおり、モスクワ・オリンピックへ男子代表チームを送ることを確認しているが、注目の選手選考を前に、「代表選手選考シリーズ」を行うと発表した。

このシリーズは2試合で5月5日午後2時から大阪市中央体育館で「全日本男子紅白試合」、17日午後3時から名古屋市体育館で「大同特殊鋼・本田技研鈴鹿混成軍」と対戦する。

5日の試合には、現在リストアップされている29名のモスクワ・オリンピック候補選手のうち24名が参加（別掲）することになっており、今回指名されなかった滝口（筑波大OB）矢島（筑波大）、金井、GK原田(ともに大崎電気)北川（慶大）の5選手は、一応、オリンピック選手選考の対象からはずれたものとしていい。

なお、モスクワ・オリンピック代表選手は、派遣人数が日本体協から公表されていないため（4月25日現在）、日本協会では発表日などを正式決定していない。

（選考シリーズ大阪大会・紅白戦出場者）▽GK福井(湧永)、岡部(大崎)、大畑(本田技)、井藤（日体大）▽FP津川、穂積、山本、池の上、生駒、志賀(以上湧永)、大原柳川、中本、蒲生(以上大同)、関山口（ともに三陽）、猪野、田口（ともに中大）、斉藤幸(大崎)、斉藤将(湯沢ク)、辻本（大阪イーグルス）、松井（栃の葉ク）、仲田（千葉教員）、西山（筑波大）

サウジアラビアが来日
6月21日、全日本男子と対戦

日本協会は、日本国内で強化と親善試合を行ないたいというサウジアラビア男子ナショナルチームの希望を受けいれることになった。

西アジア地域にあって、クウェートとともに、もっとも強化に積極的なサウジアラビアは、その頂点強化策として、アジアのナンバーワンの地位にある日本との〝交流〟をかねてから望んでおり、このほど正式に「訪日して強化を企りたい」旨の連絡があった。

日本協会では、今年度から「アジア・ハンドボール界でのリーダーシップ」をスローガンにかかげており、日本にとってもモスクワ・オリンピックを直前にした総仕上げの意味もあって、同チームの来日を承諾した。

現在の予定では、サウジアラビアは6月18日ごろ来日、まず全日本または在京チームと合同練習、そのあと21日東京体育館で全日本と対戦のあと25日から29日まで東海地域で親善試合（4試合）、再び東京へ戻って強化練習、7月5日栃木で親善試合というスケジュールである。

滞在中の経費は、試合開催費を除いては、一切サウジアラビア側が負担することになっており、栃木の試合後、さらに一週間ほどの滞日を希望している、と伝えられる。

正式な日程と対戦相手などは、5月11日の全国理事会（東京）で決まるが、6月21日の全日本との試合は「モスクワ・オリンピック壮行試合」になる予定。

U・クレムス戦は中止

日本協会は、6月に実施を予定していたオーストリア男子のトップチーム「ユニオン・クレムス」を招いての国際親善試合を中止することになった。

クレムス側の来日希望日程と、国内の受け入れが合わなかったためである。

全日本女子の東独遠征延期

日本協会は、5月11日から25日まで、東ドイツから受けていた全日本女子の招待を、しばらく延期してもらうこととなり、4月28日日本体協を通じ、東ドイツ体協（DTSB）へ打電した。

この招待は、八〇年度の日本東ドイツ交流として行われる予定だったが、全日本女子は、4月の中国遠征（本誌13頁参照）帰国後、日程がつまりすぎ、しかも6月初旬には、今シーズン初のビッグトーナメント・全日本女子実業団選手権（名古屋）が予定されるため東ドイツ遠征はムリと判断したものである。

なお、荒川理事長は「来年1月～3月の間に、東ドイツがOKなら遠征を行いたい」といっている。

専門誌のベストセブン

スポーツイベント社の専門誌「ハンドボール」は、54年度の全日本ベストセブンを読者の投票によって選考、四月号で次のように発表した。投票総数三、三七二。

▽男子・GK福井(湧永)・FP津川、穂積、山本、池の上（以上湧永）大原、蒲生(以上大同)。

▽女子・GK山本(プエ)・FP加藤、穂積(以上日ビ)、松下、河田(以上ジャ)、中川(プエ)、島田(日立)。

財団法人日本ハンドボール協会寄付行為

第1章　総則

(名称)

第1条　この法人は、財団法人日本ハンドボール協会（外国に対しては Japan Handball Association（略称 J.H.A.））という。

(事務所)

第2条　この法人は、事務所を東京都渋谷区神南一丁目1番1号岸記念体育会館内におく。

第2章　目的および事業

(目的)

第3条　この法人は、日本におけるハンドボール競技界を統轄し代表する団体として、ハンドボール競技の普及および振興を図り、もって国民体育の向上とスポーツ精神の涵養に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条　この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行なう。

(1) ハンドボール競技の全国的な競技会を開催すること。

(2) ハンドボール競技の国際競技会を開催し、またはこれに代表選手団を派遣すること。

(3) ハンドボール競技に関する競技規則を制定すること。

(4) ハンドボール競技に関する技術の研究および指導に関すること。

(5) ハンドボール競技に関する審判員の養成およびその資格を認定すること。

(6) ハンドボール競技に関する講習会の開催およびハンドボール競技の指導者を養成すること。

(7) ハンドボール競技用の用具および施設設備の検定およびそれらの公認に関すること。

(8) 機関誌その他の刊行物を発行すること。

(9) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

第3章　資産および会計

(資産の構成)

第5条　この法人の資産は、次のとおりとする。

(1) 設立当初の財産目録に記載された財産

(2) 資産から生ずる果実

(3) 加盟団体の加盟金

(4) 登録金

(5) 事業に伴う収入

(6) 寄付金品

(7) その他の収入

(資産の種別)

第6条　この法人の資産を分けて基本財産と運用財産の2種とする。

2　基本財産は、次に掲げるものをもって構成する。

(1) 設立当初の財産目録中基本財産の部に記載された財産

(2) 基本財産とすることを指定して寄付された財産

(3) 理事会で基本財産に繰り入れることを議決した財産

3、運用財産は、基本財産以外の資産とする。

(資産の管理)

第7条　この法人の資産は、会長が保管し、基本財産のうち現金は、理事会の議決を経て、定期預金とする等確実な方法により会長が保管する。

(基本財産の処分の制限)

第8条　基本財産は、譲渡し、交換し、担保に供し、または運用財産に繰り入れてはならない。ただし、この法人の事業の遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会の議決を経、かつ、文部大臣の承認を受けて、その一部に限りこれらの処分をすることができる。

(経費の支弁)

第9条　この法人の事業の遂行に要する経費は、運用財産をもって支弁する。

(事業計画および収支予算)

第10条　この法人の事業計画およびこれに伴う収支予算は、会長が編成し、理事会の議決を経て毎会計年度開始前に文部大臣に届け出なければならない。事業計画および収支予算を変更しようとするときも同様とする。

(収支決算)

第11条　この法人の収支決算は、会長が作成し、財産目録、貸借対照表、事業報告書および財産増減事由書とともに、監事の意見をつけ、理事会の承認を受けて、毎会計年度終了後2月以内に文部大臣に報告しなければならない。

2、この法人の収入決算に余剰金があるときは、理事会の議決を経て、その全部若しくは一部を基本財産に編入し、または翌年度に繰り越すものとする。

(長期借入金)

第12条　この法人が借入金をしようとするときは、その会計年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、理事会の議決を経、かつ、文部大臣の承認を受けなければならない。

(新たな義務の負担等)

第13条　第8条ただし書きおよび前条の規定する場合ならびに収支予算で定めるものを除くほか新たな義務の負担または権利の放業のうち重要なものを行なおうとするときは、理事会の議決を経なければならない。

(会計年度)

第14条　この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第4章　役員、評議員および職員

(役員)

第15条　この法人に、次の役員をおく。

(1) 理事20名以上25名以内（うち会長1名、副会長2名以内専務理事1名、常務理事7名とする。）

(2) 監事2名または3名

(役員の選任)

第16条　理事は、評議員会で選任し、会長、副会長、専務理事および常務理事は理事の互選で定める。

2　監事は、評議員会で財務に関する知識および経験を有する者のうちから選任する。

(理事の職務)

第17条　会長はこの法人の業務を総理し、この法人を代表する。

2　副会長は会長を補佐し、会長が事故あるとき又は欠けたときは、会長が予め指名した順により、副会長がその職務を代理しまたはその職務を行なう。

3　専務理事は理事会の議決に基

づき業務を掌理する。

4 会長および副会長に事故あるとき、またはその何れもが欠けたときは、専務理事がその職務を代行する

5 常務理事は、理事会の議決に基ずき、日常の事務を分掌処理する。

6 理事は、理事会を組織してこの法人の業務を議決し執行する

（監事の職務）

第18条 監事は、この法人の業務および財産に関し、次の各号に規定する業務を行なう。

(1) 法人の財産の状況を監査すること

(2) 理事の業務執行の状況を監査すること

(3) 財産の状況または業務の執行について不正の事実を発見したときは、これを理事会および評議員会または文部大臣に報告すること

(4) 前号の報告をするため必要があるときは理事会または評議員会を招集すること

（役員の任期）

第19条 この法人の役員の任期は2年とし再任を妨げない。

2 補欠または増員により選任された役員の任期は前任者または現任者の残任期間とする。

3 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、なおその職務を行なう。

（役員の解任）

第20条 役員は、次の各号の一に該当するときは理事現在数および評議員現在数おのおの3分の2以上の議決により役員を解任することができる。

(1) 心身の故障のため職務の執行にたえられないと認められるとき

(2) 職務上の義務違反その他役員たるにふさわしくない行為があると認められるとき

（評議員）

第21条 この法人には、評議員52名以上60名以内をおく。

2 評議員は理事会において第29条に掲げる加盟団体が推せんする者のうちから任命する。

3 評議員には前2条の規定を準用する。この場合においてこれらの規定中「役員」とあるのは「評議員」と読み替えるものとする。

（事務局）

第22条 この法人の事務を処理するため事務局を置く。

2 事務局に必要な職員を置く。

3 職員は会長が任命する。

4 職員は有給とする。

第5章 会　議

（理事会の招集など）

第23条 理事会は毎年3回会長が招集する。ただし会長が必要と認めたとき、または理事現在数の3分の1以上から会議の目的事項を示して請求のあったときは、その請求のあった日から21日以内に臨時理事会を招集しなければならない。

2 理事会に付議する事項は開催日の7日以前に理事に通知しなければならない。ただし緊急やむをえないとみとめられる場合はこの限りでない。

3 理事会の議長は会長とする。

（理事会の定足数等）

第24条 理事会は理事現在数の3分の2以上の者が出席しなければその議事を開き議決することができない。ただし当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示した者は出席者とみなす。

2 理事会の議事はこの寄付行為に別段の定めがある場合を除くほか出席理事の過半数をもって決し可否同数のときは議長の決するところによる。

（評議員会付議事項）

第25条 次に掲げる事項については、理事会においてあらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。

(1) 事業計画および収支予算についての事項

(2) 事業報告および収支決算についての事項

(3) 基本財産についての事項

(4) 長期借入金についての事項

(5) 第1号、第3号および前号に定めるものを除くほか、新たな義務の負担および権利の放棄についての事項

(6) その他、この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

（評議員の招集等）

第26条 評議員会は毎年2回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めた場合または評議員現在数の3分の1以上から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求されたときは、その請求があった日から21日以内に臨時評議員会を招集しなければならない。

2 評議員会に付議する事項は開催日の7日以前に評議員に通知しなければならない。ただし、緊急やむをえないと認められる場合はこの限りでない。

3 評議員会の議長は会長とする

（評議員会の定足数等）

第27条 第24条の規定は、評議員会にこれを準用する。この場合において、同条中「理事会」および「理事」とあるのは、それぞれ「評議員会」および「評議員」と読み替えるものとする。

（議事録）

第28条 すべての会議には議事録を作成し議長および出席者の代表2名以上が署名押印のうえ、これを保存する。

第6章 加盟団体

（加盟）

第29条 この法人の加盟団体は、各都道府県のハンドボール競技を統轄する団体（以下「各都道府県協会」という。）とする。

2 この法人は、全日本実業団ハンドボール連盟、全日本学生ハンドボール連盟、全国高等学校体育連盟ハンドボール部、全日本教職員ハンドボール連盟、全日本自衛隊ハンドボール連盟など全国的ハンドボール団体について、評議員会の議決を経て加盟団体とすることができる。

（脱退）

第30条 加盟団体はこの法人の加盟団体として不適当と認められるにいたったときは理事および評議員おのおの現在数の3分の2以上の同意を経て、これを脱退させることができる。

（加盟金）

第31条 加盟団体は、予算の定めるところにより、毎年加盟金を納付しなければならない。

（地区連盟）

第32条 この法人は、各都道府県協会の運営を円滑にするため、別表の地方別に地区連盟を置く

第7章 寄付行為の変更ならびに解散

（寄付行為の変更）
第33条　この寄付行為は理事現在数および評議員現在数のおのおのの3分の2以上の議決を経、かつ、文部大臣の認可を受けなければ変更できない。

（解散）
第34条　この法人の解散は理事現在数および評議員現在数のおのおのの4分の3以上の議決を経、かつ、文部大臣の認可を受けなければならない。

（残余財産の処分）
第35条　この法人の解散に伴う残余財産は、理事現在数および評議員現在数のおのおのの4分の3以上の議決を経、かつ、文部大臣の許可を受けて、この法人の目的に類似の目的を有する公益法人に寄与するものとする。

第8章　補　則

（書類および帳簿の備付等）
第36条　この法人の事務所に、次の書類および帳簿を備えなければならない。ただし他の法令によりそれらに代る書類および帳簿を備えたときは、この限りでない。
(1) 寄付行為
(2) 役員、評議員および職員の名簿および履歴書
(3) 財産目録
(4) 資産台帳および負債台帳
(5) 収入支出に関する帳簿および証拠書類
(6) 理事会および評議員会の議事に関する書類
(7) 庶務日誌
(8) 官公署往復書類
(9) その他必要な書類および帳簿

2　前項第6号の書類は永年、同項第5号の書類および帳簿は10年以上、同項第7号および第8号の書類は1年以上それぞれ保存しなければならない。

（細則）
第37条　この寄付行為についての細則は理事会の議決を経て別に定める。

付　則

第1条　従前の日本ハンドボール協会に属した権利義務はこの法人が継承する。
第2条　第16条の規定にかかわらずこの法人の設立当初の理事および監事は次のとおりとする。
（編集部注・氏名未発表）
2　これらの役員の任期は第19条の規定にかかわらず昭和56年3月31日までとする。

別　表

地区名	地域（都道府県）
北海道	北海道全域
東　北	青森、秋田、山形、岩手、宮城、福島
関　東	栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、茨城、神奈川、山梨
北信越	長野、新潟、石川、富山、福井
東　海	静岡、愛知、岐阜、三重
近　畿	滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、兵庫
中　国	岡山、広島、島根、山口、鳥取
四　国	香川、高知、徳島、愛媛
九　州	福岡、大分、佐賀、長崎、宮崎、鹿児島、熊本、沖縄

理事の自覚がカギ
～「寄付行為」を読んで～

日本協会財団法人後の憲法ともいうべき、8章37条にわたる「寄付行為」が発表された。

3月31日の発起人会議で承認を受け、すでに文部省あて申請が行われているものだが、さすがに任意団体としての現行「日本協会規約」よりも、すべて重々しく、法人後の日本協会の責任の重大さを感じさせる。

全般的には、起草した荒川理事長、大野総務担当常務理事が説明しているように、四十二年の伝統を築きあげた日本協会の精神、業績を受けついでいるが組織の構成運営などは、大きな変ぼうを遂げることになり、このあたりの理解を、法人化前、関係者に徹底しておかないと、大小のトラブルが起こりかねない。

特に「理事」は、法律上の呼称であり、法人執行の構成者として、これまでとは比べものにならぬほど、その責任は重く、大きくなる。

ともすれば、中央の常務理事まかせといったムードでは、法人としての成長を妨げることになり、ましてや、名誉職的にこのポストを考えて人材が選出されるようでは拙い。

現行33名以内から、最大25名に〝縮少〟されることで、現執行部内に動揺があるとも聞くがそんな空気では、とうてい、法人としての活動を全うできない。

会長、副会長が理事として加わるのも、法人の執行機関の重さを示すものだ。理事会の認識向上が望まれる（会長、副会長を理事とする考えかたは、15年前、日本協会規約に一度、導入されたが、時期尚早の声が強く2期（4年）だけで、引っこめられている）

同時に、理事選任権をもつ評議員会も、これをきっかけに〝正常な姿〟になることが期待される。

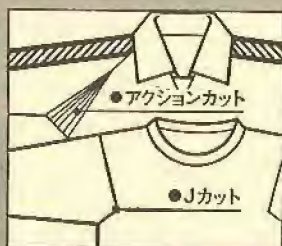
現行の代議員会は、すべてに執行部（全国理事会）まかせ、最高決議機関というより、単なる〝事業承認機関〟で、日本ハンドボール界の現状を掌握し、ビジョンを打ち出す姿勢に乏しかった。

また、これまで日本協会の組織となっていた47都道府県協会が、全国連盟同ようの加盟団体に変わるのも、大きな改善。

日本協会は、いくつもの下部組織の集合体ではなく、日本協会という独自の団体(法人)であることの自覚が、全関係者にしみ渡って欲しい。

今回の寄付行為に「役員の報酬」が盛りこまれるかどうか、一つの興味だったが、どうやら見送られたようだ。役員の奉仕精神に頼る現状は、限界があろう。

当面、事務局（職員）をいかに強化するか、在京理事がどこまで支援するかが「法人」を軌道にのせる最大ポイント、「寄付行為」による初代執行部と専門委員会の熱意が、大きなカギである。

（杉山　茂）

岩国工、春の王者に返り咲く

～第3回全国選抜大会～

女子は小松市女が連続優勝

春の高校王者は、男子が岩国工（地元山口）、女子が小松市女（石川）に決まった。

第3回全国高校選抜大会は、3月26日から28日まで徳山の徳山市体育館と徳山高校体育館に、全国各ブロックで勝ち抜いた男女各10チームが集まり、熱戦が繰り広げられた。

第一・二回大会は名古屋で開催されたが、今回は山口県徳山市に会場を移して開かれた。

男子決勝は、第一回大会の勝者岩国工と第二回大会優勝の中大附属との対戦となった。総合力では僅かに優ると思われた中大附属だが、地元岩国工の勢いに押し切られた。

女子は小松市女が苦しみながらも2年連続2度目の勝利をかちとった。

延長戦が4試合あるなど、毎試合が接戦の連続で、息の抜けない好試合であった。全体的には各チームの仕上りは早く、選抜大会に的をしぼって練習に励んできた成果が随所に見られた。

なお、来年の第4回大会は、3月25日から27日まで、再び名古屋市に戻って開かれる予定。

男子

▽1回戦（2試合）

氷見（富山）10（5—5 5—3）8 釧路湖陵（北海道）

	【湖陵】	得	【氷見】	得
GK	森	0	田中	0
GK	大場	0	川崎	0
FP	米内山	2	瀬戸	2
FP	川合	0	矢田	2
FP	酒井	1	小坪	4
FP	岩下	2	金原	1
FP	細谷	0	中原	1
FP	久保	2	瀬戸	0
FP	相星	0	森	0
FP	住谷	0	山本	0
FP	松下	0	桜田	0
FP	成田	1	西山	0

（審・東 荒谷）

10（2）PT（1）8

○…両チーム共初戦とあって、動きが悪くシュートミス・パスミスが多くみられた。得点も前半を終って5—5と、予想したよりも少なくなった。

後半に入ると5番岩下のミドルシュートで湖陵がリードした。一方氷見は守りの時間が長くやっと15分に小坪がカットインから同点とした。その後氷見は5番、4番6番が3連続得点し、苦しい一勝を手中に納めた。（横）

此花学園（大阪）19（7—4 12—9）13 県岐阜商（岐阜）

	【岐阜】	得	【此花】	得
GK	武井	0	津村	0
GK	広瀬雅	0	佐藤	0
FP	端田	2	南	5
FP	浅井	0	早野	2
FP	広瀬友	5	寺村	2
FP	小木曽	2	谷川	4
FP	伊藤	0	菅沼	6
FP	小林	0	山本	0
FP	安藤	2	盛	0
FP	清水	2	酒井	0
FP	鷲尾	0	横田	0
			柏木	0

（審・中村 中所）

19（4）PT（2）13

○…立ち上り第一試合のためか両チーム共に固さがみられたが、10分過ぎ相手ミスから速攻を決めた此花がリードをうばった。

後半両チーム共固さもとれ、元気のある攻防をくり返えしたが、やや地力にまさる此花が走り勝った。（山根）

岩国工延長の辛勝

▽準々決勝

岩国工（山口）11（5—4 3—4 3—2）10 学法石川（福島）

	【石川】	得	【岩国】	得
GK	川井	0	松本	0
GK	鈴木	0	塚田	0
FP	大竹	0	藤田	2
FP	村上	3	河本	2
FP	南条	1	中村	1
FP	有松	1	旗平	2
FP	松崎	0	原田	3
FP	岡部	2	清水	1
FP	南条茂	1	中村	0
FP	鈴木	2	村岡	0
FP	永沼	0	大浜	0
FP	小林	0	是枝	0

（審・常田 松原）

11（3）PT（4）10

○…立ち上がり両チーム共にシュートミスが多く、得点に苦しんだが岩工は5分32秒6番原田の右45度よりのシュートで先取点をあげた。

この頃から両チーム共攻守が実動しだし、以後接戦となり、岩工の1点リードでハーフタイムとなった。後半互いに堅いディフェンスにより得点できず、1点を争う試合から延長戦となった。

延長に入っても両チーム共全く体力の疲れを見せず、熱戦を繰り広げたが、残り15秒岩国はペナルティを確実に決め準決勝進出を決めた。（荒谷）

中大附属（東京）15（8—8 7—5）13 新居浜工（愛媛）

	【新居】	得	【中大】	得
GK	星加	0	山口	0
GK	牧野	0	山片	0
FP	佐伯	0	長坂	11
FP	村上	2	大木	0
FP	横山	0	小山	1
FP	鈴木	2	下野	0
FP	真砂	1	田中	3
FP	岡部	6	坂井	0
FP	神野	2	永井	0
FP	石川	0	佐藤弘	0
FP	伊藤	0	堀	0
FP	高岡	0	佐藤光	0

（審・横瀬 古宮）

15（4）PT（3）13

○…新居浜工立ち上り20秒ダブルスカイプレーで得点すると、中大付もフリースローから得点し1対1とした。8分過ぎまで中大付がフリースローで得点すれば、新居浜工はフェイントから得点して互角の展開となり、8—8で前半を終了した。

後半10分まで力の中大付、動きの新居浜工のゲーム展開で進んだが、サイド寄りからのシュートで新居浜工が2点リードした。残り5分を切って新居浜1点リードで緊迫した。

中大付は残り2分、ポストからのシュートで同点とし50秒を切ってポストからのシュートで逆転勝ちを納めた。（中所）

氷見、後半くずれる

大分電波（大分）20（8—7 12—7）14 氷見

	【氷見】	得	【大分】	得
GK	田中	0	為末	0
GK	川崎	0	手島	0
FP	瀬戸茂	2	松岡	1
FP	矢田	5	清水	3
FP	小坪	4	三宅	0
FP	金原	1	園田	1
FP	中原	1	二宮	9
FP	瀬戸政	0	工藤	2
FP	森	0	大塚	0
FP	山本	1	朝生	4
FP	桜打	0	海江田	0
FP	西山	0	釘宮	0

20（4）PT（1）14

○…前半は両者共にカットインプレーやポストプレーで戦い、互角の争いになった。大分はややラッキーな面があり点リードして前半を終えた。

後半に入ると大分のディフェンスのフットワークがさえ、再三パスカットからの速攻がきまり、勢いづいた。

一方氷見は、ディフェンスに元気がなく、攻守にアンバランスになっていた。（常田）

修道、逆転負け

此花学院 15（9—10 6—4）14 修道（広島）

【修道】	得		【此花】	得
小西	0	GK	津村	0
		GK	佐藤	0
中島	0	FP	南	5
中村	0	FP	星野	0
松浦	0	FP	寺村	1
児玉	9	FP	谷川	5
木和西	1	FP	菅沼	4
広川	2	FP	山本	0
成瀬	2	FP	盛	0
		FP	酒井	0
		FP	横田	0
		FP	柏木	0

（審・山根 中森）

15（1） PT （0）14

○…前半15分ほどは修道高校5番児玉と此花学院2番南のロングシュートの応しゅうといった感じのゲーム展開であった。此花は強引なフェイントプレーが多くオフェンスプレーに一考を要する。それに引きかえ修道はフォーメーションプレーで応戦したが、攻撃が消極的であった。最後まで1点を争うシーソーゲームであった。（横瀬）

大分電波粘りも実らず

▽準決勝

岩国工 15（9—9、4—4、2—1）14 大分電波

【大分】	得		【岩国】	得
為末	0	GK	松本	0
手島	0	GK	塚田	0
松岡	2	FP	藤田	2
清水	0	FP	河本	8
三宅	0	FP	中村	0
開田	1	FP	旗手	2
二宮	2	FP	原田	3
工藤	1	FP	清水	0
大塚	0	FP	中村	0
朝生	7	FP	村岡	0
海江田	0	FP	大浜	0
針宮	0	FP	是枝	0

（審・荒谷 東）

15（1） PT （3）14

○…立ち上り1分岩工のポストからのシュートでスタート。その後大分のディフェンスが安定し、一進一退のゲーム展開となった。

両チーム共にダブルポストからの展開で加点した。後半に入っても同様の展開で、シーソーゲームのまま残り5分をむかえた。残り2分岩工河本のサイドシュートが決り、岩工の勝利とみられたが、残り50秒に大分はPTを得て、何点延長にもつれ込んだ。

延長戦前半ポスト・サイドで1対1としたが、後半2分過ぎ、岩工・旗手のサイドシュートが決り岩国工がにげきった。（中所）

決め手欠いた此花学院

中大附 21（7—4、14—7）11 此花学院

【此花】	得		【中大】	得
津村	0	GK	山口	0
佐藤	0	GK	山片	0
南	5	FP	長坂	11
早野	0	FP	大木	6
寺村	1	FP	小山	2
谷川	2	FP	下野田	0
菅沼	2	FP	田中	2
山本	1	FP	坂井	0
盛	0	FP	永井	0
酒井	0	FP	佐藤弘	0
横田	0	FP	堀	0
柏木	0	FP	佐藤光	0

（審・片山 槇）

21（2） PT （1）11

○…試合開始45秒此花は速攻で先取点をあげるが、中大附は4分、6分15秒・7分半と3点連取し、逆転した。その後此花は速攻やサイドからの攻撃をしかけるが、中大附GKの好守に阻まれ、7対4で前半を終えた。

後半に入っても2番のロングを主体にセットで着々加点する中大附に対し、此花はあせりが出て、最後までペースがつかめず、意外な大差で終了した。決め手の存在の差が出たゲームであった。（古宮）

男子決勝・中大付×岩国工戦。シュートを狙う長坂（中大付）

中大付、前半の優位守れず

▽決勝

岩国工 15（6—8、9—6）14 中大附

【中大】	得		【岩国】	得
山口	0	GK	松本	0
山片	0	GK	塚田	0
長坂	5	FP	藤田	1
大木	5	FP	河本	7
小山	1	FP	中村	0
下野田	0	FP	旗手	2
田中	2	FP	原田	1
坂井	0	FP	清水	4
永井	0	FP	中村	0
佐藤弘	1	FP	村岡	0
堀	0	FP	大浜	0
佐藤光	0	FP	是枝	0

15（4） PT （3）14

○…前半中大附は、長坂、大木の両ロングシューターが豪快なシュートを決めれば、ポストで田中が巧いフェイントからシュートを決めるなど、バランス良い攻撃で岩国工を圧倒した。一方岩国は中大附の一線防御をなかなか破れず、河本旗手の活躍でかろうじて前半を6対8とした。

前半押し気味に試合を進めていた中大附だが、後半に入ると一変してしまった。

後半早々岩国は反撃に転じた。清水・河本が連続得点し、一気に同点とした。その後も3連続得点して11対8と逆転に成功した。この間10分、中大附も長坂が強力なシュートで応戦したが、岩国工のGK松本の好守に阻まれ、得点できなかった。

後半10分過ぎ中大附も大木・田中らの得点で一時は同点にするが岩国工清水の速攻が大事な所で決り、またしても引き離されてしまった。残り5分で岩国が15—12としたところで、岩国の攻撃が消極的となり、再三ストーリングとられていた。この間中大附は、必死に追いすがり、14—15としたがあと一歩の所でタイムアップとなってしまった。（平岡）

岩国工・青木操監督の話　地元代表らしく恥ずかしくない内容の試合をと思っていただけなので、とても嬉しい優勝だ。

毎試合ヒーローが代ったのでも分かるとおり、全員、持てる力を存分に発揮したのが勝因といえる。

決勝戦は、まず相手の動きを見ることにしていたので、前半、リードを奪われてもあわてなかった。

中大付・川上整司監督の話　優勝できると思っていたのですが…敵はチーム内の〝油断〟だけと云い切れる力を持って臨んで来たので残念。

ウチの特徴は、あくまで二枚大砲を使っての攻撃力、決勝戦を前に、長坂が体調を崩してしまったのが誤算だ。

この悔しさを、夏に向けたいと思います。

女子

▽1回戦（2試合）

和女大附国府台（千葉） 10（6—2／4—4）6 新居浜市商（愛媛）

得	【国府】		【浜商】	得
0	浜野	GK	永易	0
			岩崎	0
2	鈴木	FP	飯尾	1
3	山崎	（審・槇 片山）	石村	2
1	小川		神山	1
2	奥原		高橋	0
2	小原		岡本	2
0	堀切		黒瀬	0
0	小林		近藤	0
0	清水		柳原	0
0	片岡		塩崎	0
0	重田		塩見	0
10	（0）	PT	（2）	6

○…立ち上りより両チーム共シュートが荒く、ミスが多かったが、国府台は脚力と多彩な攻撃で着々と点を上げていった。一方新居浜は動きの堅さが見られ、パスワークのコンビがとれず、キャッチミスが目立った。

後半になり、新居浜も堅さがとれ、動きも良くなり、コンビネーションもとれてきたが、もう少し切り込みがほしかった。国府台は3番・5番を中心に早い攻撃で得点を重ねていった。脚力とシュート力の差であった。（松原）

夙川学院（兵庫） 9（5—2／4—4）6 山陽女子（広島）

得	【夙川】		【山陽】	得
0	藤本	GK	深瀬	0
0	斉藤		森脇	0
3	若水	FP	蔵野	0
0	李	（審・中森 山根）	台田	3
0	牧野		中本	1
6	秋成		中田	0
0	北山		渡辺	2
0	市岡		田村	1
0	林		高根	0
0	廣田		越島	0
0	茂山		呼坂	0
0	塩谷		大島	0
9	（0）	PT	（1）	7

○…試合開始直後、リズムのかみ合わない山陽女子のパスミス・キャッチミスに乗じ、夙川は5番秋成のロングシュート等で着々と加点する。山陽は、全くリズムをとりもどすことなく前半を終えてしまった。後半に入っても夙川は秋成のフリースローからのシュートなどで引き離したかに見えたが、11分・12分・13分とたて続けに山陽の速攻が決り、1点差となった。17分過ぎに山陽の速攻チャンスが生れ、同点かと思われたが、夙川GKの好守に阻まれ追いつけなかった。後半は実にみごたえある試合となった。（古富）

女子決勝・小松市女×市邨学園。小松市女は豪快な攻撃と手固いディフェンスで2連勝を飾った。

大曲農、ベストフオアへ

▽準々決勝

市邨学園（愛知） 11（4—4／5—5／2—0）9 徳山（山口）

得	【市邨】		【徳山】	得
0	木村	GK	大石	0
0	野口		安坐	0
6	寺沢	FP	久保	1
0	稲垣	（審・荒谷 東）	森	1
0	森		玉嶋	0
1	鷲野		栗田	2
3	坪井		寺西	3
1	岩佐		藤田	2
0	村田		和西	0
0	今枝		福田	0
0	田原		原田	0
0	安田		岡村	0
11	（1）	PT	（0）	9

○…立ちあがり、スピードのある動きとパスワークで3点を先取した徳山のペースで始まったが、市邨2番寺沢のシュートからおいあげられ、4—4で前半を終えた。

後半市邨の先取得点から開始され、両チーム特色を生かし一身一体をつづけ延長戦になった。

延長に入ると得山6番寺西の故障から徳山のペースが乱れ、荒いシュートが多くなり、そこを市邨が速攻にむすびつけ決勝点をかちとった。（片山）

小松市女（石川） 9（5—4／4—2）6 熊本市立（熊本）

○…両チームとも早い動きで、立ち上りから好ゲームが展開された小松が2点をリードしてやや有利に試合を進めたが、熊本も10分過ぎ同点に追いつき一進一退の攻防が続いた。

一点リードして後半を迎えた小松は熊本の烈しい当りにペースをつかめなかったが、8番の好リードと好シュートで着々と加点し、点差を広げていった。熊本に惜しまれるのは、良い形になりながらシュートにやや確実性がなかったことである。（中森）

大曲農（秋田） 8（3—2／5—5）7 国府台

得	【大曲】		【国府】	得
0	鈴木	GK	浜野	0
0	佐藤		重田	0
0	佐々木	FP	鈴木	3
0	品川	（審・常田 松原）	山崎	0
0	高橋勝		小川	1
0	伊藤絹		奥原	0
2	高橋貴		小原	3
3	進藤		堀切	0
0	佐藤佳		小林	0
0	伊藤ル		清水	0
3	照井		片岡	0
0	武藤			
8	（0）	PT	（2）	7

○…両チームともやや攻撃が単調で凡ミスが目立ったが、8分・10分と大曲が得点し、16分過ぎにも大曲10番の照井が3点目を入れ、前半リードで終了した。

後半に入り、国府台5分過ぎに2ペナルティを含む3連続得点で逆転し、リードをうばった。その後はシュートミスも多く、一進一退の試合展開となった。

結局大曲農高の前半1点リードを国府台がはねかえせず、大曲の勝利となった。

夙川学院 16（12—0／4—6）6 上磯（北海道）

得	【夙川】		【上磯】	得
0	藤本	GK	三国	0
0	斉藤		成田	0
4	若水	FP	津軽	0
3	李	（審・横瀬 古富）	吉田晃	3
1	牧野		吉田尚	0
4	秋成		阿部	3
2	北山		加我	0
0	市岡		高田	0
0	林		田中	0
2	廣田		福原	0
0	茂山		高橋	0
0	塩谷			
16	（0）	PT	（2）	6

○…走・攻・守ともに格段の差があり、上磯に戦う気力さえ感じられないほど夙川が一方的に攻めまくった。夙川は秋成を中心に、若水季らが着実に特点を重ねていった。

一方上磯は夙川の防御ラインを突破できずに前半無得点となってしまった。後半に入り上磯は、阿部の活躍などで6点を返したが、勝敗を左右までには到らなかった。

上磯高の今後の奮起を期待したい一戦であった。（中村）

夙川の健闘およばず

▽準決勝

市邨学園 16（7－6、9－3）9 大曲農業

【大曲】		得
GK	鈴木	0
GK	佐藤典	0
FP	佐々木	0
FP	品川	0
FP	高橋	2
FP	伊藤絹	0
FP	高橋	0
FP	進藤	1
FP	佐藤佳	0
FP	伊藤ル	0
FP	照井	4
FP	武藤	2

【市邨】		得
GK	木村	0
GK	野口	0
FP	寺沢	5
FP	稲垣	4
FP	森	0
FP	鷲野	4
FP	坪井	2
FP	岩佐	1
FP	村田	0
FP	今枝	0
FP	田原	0
FP	安田	0

（審・横瀬、吉富）

16（2）PT（1）9

○…前半市邨は、もたついた試合展開でむりなシュートが多く、その力を十分だしきらないまま終了する。一方大曲はシュート後の帰りが遅く、市邨に走られはしたがゴールキーパー鈴木の好守と10番照井の好プレーで、よく市邨についていった。

後半に入ってから市邨は、落着いたコンビネーションプレーを取りもどし、着々と加点した。8分過ぎからは大曲をつきはなし、勝負を決めた。（東）

小松市女 20（6－9、6－3、2－2、6－2）16 夙川学院

○…夙川はエース5番秋成の活躍で前半9－6と3点リードして後半に入った。しかし粘る小松は速攻とミドルで残り2分に同点として延長戦にもち込んだ。第1延長では両チーム五格の闘いで2点づつ得点し、第2延長となった。

【夙川】		得
GK	藤木	0
GK	斉藤	0
FP	若水	3
FP	季	0
FP	牧野	0
FP	秋成	12
FP	北山	0
FP	市岡	0
FP	林	0
FP	廣田	0
FP	茂山	1
FP	塩谷	0

【小松】		得
GK	吉田	0
GK	中山	0
FP	中田	1
FP	沢田	0
FP	高田	1
FP	村田	0
FP	藤田裕	2
FP	藤田祐	1
FP	太田	9
FP	竹	0
FP	川端	0
FP	高木	6

（審・中村、中所）

20（3）PT（4）16

第2延長に入ると小松は脚力の差を見せつけ矢次ぎ早に得点し、逆転勝ちを納めた。

小松の全員のプレーに対し、夙川は秋成に頼り過ぎた感があった（槇）

市邨の反撃遅し

▽決勝

小松市女（石川）14（10－5、4－7）12 市邨学園（愛知）

【市邨】		得
GK	木村	0
GK	野口	0
FP	寺沢	5
FP	稲垣	2
FP	森	0
FP	鷲野	1
FP	坪井	1
FP	岩佐	3
FP	村田	0
FP	今枝	0
FP	田原	0
FP	安田	0

【小松】		得
GK	吉田	0
GK	中山	0
FP	中田	2
FP	沢田	1
FP	高田	0
FP	藤田裕	0
FP	藤田祐	2
FP	太田	6
FP	竹	0
FP	川端	0
FP	高木	3

（審・中村、中所）

14（3）PT（1）12

小松8番太田が、立ち上り2PTを含む4連続点を取った。一方市邨は小松を必要以上に意識しすぎたのか、やや全体に硬さがみられ、シュートに今一つ威力が感じられない。また守ってもコンビネーションの乱れが目立っていた。

しかし後半に入ると市邨の硬さもほぐれ、2番寺沢の好プレーで7分過ぎに2点差に追いついた。12分にはPTを取り、1点差に追いつくチャンスがあったが、これを小松のGK吉田の好守に阻まれた。

結局この1点がいのちとりとなり、終始小松のリードで押し切られてしまった。

最終的には、2点差となったがどちらのチームにも勝たせたい好ゲームだった。（東）

小松市女・谷口俊春監督の話

一年生の多いチームなので、どうかと思っていたが、肝心のところで、二年生が活躍してくれた。嬉しい優勝です。

若いチームなので、今後も練習を積んで、先輩にまけぬような立派な成績をあげるように努力したい。

市邨学園・小林高根監督の話

ここまで来たからには勝ちたかったが、勝負どころでのミスが痛かった。それも、PTやノーマークばかりだったのですから…。後半に追いあげた攻撃力を、最初から出していればと悔やまれます。

浦和実業、名短大付が参加

台湾の「中正杯」大会

台湾協会による初の国際青少年トーナメント「中正杯」大会が4月10日から16日まで、台北市の市立体専体育館で行われ、日本から男・浦和実業学園高（埼玉）、女・名短大付高（愛知）が、プライベートな立ち場で参加した。

同大会には、男子は、地元台湾の単独チームのほかホンコン、フランス、サウジアラビア、韓国、女子は台湾勢以外、西ドイツ、イタリア韓国からチームが送られて来ていた。

男子は、参加8チームを4チームづつ2組に分け予選リーグ、各組同位者で順位を争い、浦和実業学園高は3位となった。

女子は、参加6チームの決勝リーグで名短大付高は5位だった。

なお、優勝は男子が莒光、女子が荘敬の台湾勢。

▼男子の記録（関係分）

▽予選リーグA組

莒光（台）24－14 浦和実業高

浦和実業高 12－10 国光（台）

浦和実業高 25－7 ホンコン選抜

▽3・4位決定戦

浦和実業高 21（8－7、13－10）17 サウジアラビア・ユース

▼女子の記録（関係分）

▽決勝リーグ

荘敬（台）16－12 名短大付高

自強（台）12－10 名短大付高

韓国ジュニア 20－9 名短大付高

イタリア 11－8 名短大付高

名短大付高 10－9 西ドイツ

（注）イタリア、西ドイツのチーム名は不明

全日本女子、中国と1勝1敗

男子は中国、東ドイツを転戦

速報

日本ハンドボール界の新シーズンは、男女ナショナルチームの海外遠征で幕をあけた。まず、モスクワ・オリンピックを目指す男子ナショナルチームは4月1日から東ドイツへ遠征、モスクワで金メダル候補にあげられている同国ナショナルと2試合のほか、全国リーグのトップチームと3試合を行った。

昨冬のオリンピックアジア予選以後、実戦から遠去かっていた全日本男子は攻撃力こそ東ドイツ勢とほぼ互角にわたりあったが、守備面で力の差を見せつけられ5連敗。

引きつづき、12日から中国へ転戦、14年ぶりの「日中交流」復活として、同国のトップチームと6試合を行ない、5勝1敗の成績をおさめた。

一方、新メンバーに切り替えた女子ナショナルチームは、12日から初の中国遠征を行ない6戦、中国ナショナルとの対戦は1勝1敗に終ったが、若さを露して通算成績は1勝1分4敗と低調だった。初登場の中国は、大型選手が秀れたジャンプ力を備え、浅い国際経験にもかかわらず、かなりのレベルにあることを示した。

この交流で、日本女子の前には韓国につづき中国が立ちはだかることも明きらかとなり、二年後の世界選手権（ハンガリー）へ向かって、多難な船出となった。

なお、男女両チームは合同して25日夕、北京から大阪国際空港へ着いた。

＝詳報次号

男子 ▼第4回日本・東ドイツ交流

▽第1戦（4月2日・ロストック）
SC・エムポール・ロストック 26（15－16、11－8）24 日本

▽第2戦（3日・ポッダム）
東ドイツ 32（13－12、19－8）20 日本
（日本選手の得点）蒲生7、池の上6、大原4、津川2、穂積1

▽第3戦（4日・ブレムニッツ）
東ドイツ 26（15－9、11－5）14 日本
（日本選手の得点）蒲生4、池の上3、津川、斉藤将、大原各2 志賀1、

▽第4戦（6日・マグデブルグ）
SC・マグデブルグ 29（10－16、19－7）23 日本

▽第5戦（7日・フランクフルト）
ASK・ヴォルワルツ・F 24（13－6、11－8）14 日本

▼第3回日本・中国交流

▽第1戦＝遠征第6戦（12日・北京）
日本 20（10－7、10－10）17 人民解放軍「八月一日」ク

▽第2戦（13日・北京）
日本 26（16－12、10－10）22 北京選抜

▽第3戦（15日・安徽屋外手球場）
日本 24（14－10、10－9）19 安徽省選抜

▽第4戦（17日・安徽屋外手球場）
日本 26（11－8、15－11）19 天津選抜

▽第5戦（20日・上海）
日本 26（12－12、14－10）22 上海選抜

▽第6戦＝遠征最終戦（22日・上海）
廣西選抜 27（13－9、14－16）25 日本

中国、秀れた攻撃力示す

女子 ▼第1回日本・中国交流

▽第1戦（4月12日・北京）
中国 21（7－8、14－5）13 日本
（日本選手の得点）島田6、西3、桑原4

▽第2戦（13日・北京）
北京選抜 20（10－8、10－7）15 日本

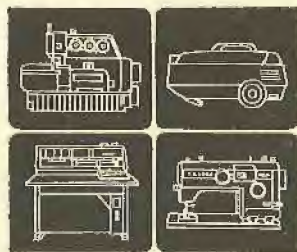
▽第3戦（15日・安徽屋外手球場）
安徽省選抜 18（9－4、9－7）11 日本

▽第4戦（17日・安徽屋外手球場）
日本 16（8－7、8－6）13 中国
（日本選手の得点）島田6、山村5、西2、姫野、伊藤、水上各1

▽第5戦（20日・上海）
上海選抜 13（6－6、7－4）10 日本

▽第6戦＝最終戦（22日・上海）
日本 13（7－5、6－8）13 天津選抜
引き分け

伊藤和夫団長（日本協会理事）の話　東ドイツは、ちょうど国内シーズンが最盛期、コンディション上々なのに対し、全日本はアジア予選後、久しぶりのゲームとあって、この調整の差がスコアに出てしまった。

中国女子は体力に恵まれ、韓国とともに、日本にとって大きな壁となりそうだ。

渡辺、荒川両氏が理事に

〜第3回ＡＨＦ総会〜

報告・大野　金一
（日本協会常務理事）

◇理事の改選　アジアハンドボール連盟（ＡＨＦ）が設立されたのは一九七六年一月である。今回の総会は、創立総会も含めて三回目であり、去る四月一二日及び一三日香港で開催された。

日本からは、荒川理事長と私が出席した。

今回の重要議題は、四年任期の理事の改選である。日本協会からは、常務理事会、全国理事会、代議員会の議決により、荒川理事長をＡＨＦの理事候補として、書面により、予め伝えておいた。

従来日本協会は、同じ国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）の加盟国だった台湾と未加盟国の中国との関係から、中国、北朝鮮、中東諸国で作ったＡＨＦに対しては静観する立場をとってきた。ＩＨＦも当初はＡＨＦを積極的に認めない（ＡＨＦの会長にいわせるとＡＨＦをつぶしにかかった）立場をとっていたが、やがてこれを認めざるを得ない情勢になり、当時ＩＨＦのアジア担当理事だった渡辺和美氏がＡＨＦの理事を兼ねることになった。

そのような変化に対応して、日本協会は、ＡＨＦ創立後六カ月経ってＡＨＦに加盟し、第一回アジア選手権大会（クウェート）にも選手団を派遣し優勝した。

日本協会がアジアの中で積極的な姿勢をとりだしたのは、中国が昨年一〇月国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）に復帰し、中国ハンドボールも同年一一月ＩＨＦに仮加盟を認められてからである。

第二回のアジア選手権大会（男子・南京）に優勝し、そのあとすぐ台湾におけるモスクワオリンピック・アジア予選に出場し、その直後に日本で仮加盟の中国とアジア代表決定戦を行なわざるを得ないという、現在のアジアにおけるハンドボール機構の不合理を正すという必要論のほかに、歴史的に長い結びつきをもっている中国と相携えて、これからのアジア地区のハンドボールの技術水準をヨーロッパ並みに高め、アジア全域にハンドボールを普及するという使命感が、日本協会関係者の中に、中国のＩＨＦ仮加盟を契機として芽生えてきた。

現に今回の総会における専務理事の報告でも、第二回アジア選手権大会については、第二回アジア選手権大会の開催以外何一つなく、この大会も中国の努力で開催されたものであるが参加国は五カ国に過ぎなかった。今回インド、イラクなどから提案されたように、アジア独自のレフェリー講習会、トレーナー・コーチ講習会など、アジアの技術水準の向上とハンドボールの普及のための施策が最も望まれているのである。スポーツ団体にありがちな名誉職的な役員だけでは何もできない。今回の議題にもなったＡＨＦの財政的基盤のぜい弱性ももちろん原因していると思うが、根本は理事の意識の問題であろう

日本協会がＡＨＦ理事として荒川日本協会理事長を推せんしたのは、右のような認識のうえに立ってのことである。ＩＨＦへのＡＨＦ代表の候補にも推せんしてあるが、第一歩は先ずアジアの足場を固めることである。今回の総会の前日にもＡＨＦ会長に会って右のような事情を説明した。渡辺和美氏が理事として留任したいという意向をもっていることは、公式にはこのとき初めてきいた。

ＡＨＦの規約では、理事等の候補は原則として加盟国協会の推せんによることになっているが、現職の理事等は、望めば総会の承認のもとに立候補できることになっている。

結果的には、日本人が理事候補として二人立つことになるが、われわれは、あくまでも日本協会の荒川候補推せんの経過だけを会長に説明し、会長もその間の事情を十分了解した。常任理事会における常任理事以外の理事定数増員案は、右のような事情もあって止むなくとられたものであろう。

ＩＨＦ派遣理事決まらず

総会最後の議題は、常任理事以外の理事の定数を四名から六名に増員する規約改正と理事の決定であった。

結局、理事は、日本人二人（渡辺氏、荒川氏）の他に香港、イラク、カタール、パレスチナが無競争で当選した。会長（クウェート）第一副会長（バーレーン）、第二副会長（中国）、専務理事（パキスタン）、会計理事はそのまま留任。

予定では、ＩＨＦへのＡＨＦ代表を決定することになっていたがその決定までにはいたらなかった

今や、アジアでは、男子は中国の猛追によって、日本も安閑とはしていられない。中国と競い合いながらヨーロッパに追いつく、これが日本が立たされている現状である。日本協会は、来年度の事業として、中国とヨーロッパ二、三カ国を加えた「ジャパンカップ」を計画しているが、今後アジア選手権大会やオリンピック、世界選手権アジア予選など日本が積極的に働きかけることも必要である。従来日本は、ＩＨＦおよびＡＨＦとのパイプは、実質上は一つもなかった。これを契機に、日本のアジアでの活動を開始すべきであり、アジア各国もそれを期待している。

◇第三回アジア選手権　二年後に予定される同大会は、イラクがホスト国を申し出、承認された。

アジア競技大会も一九八二年にインドで開かれるが、この種目の中にハンドボール競技が入るかどうかは、来たる五月二七、二八日に開かれるアジア競技連盟（ＡＧＦ）の実行委員会で決められるがインド代表の報告では、その見通しは暗いということだった。

なお次回ＡＨＦ総会は、アジア大会の際インドのデリーで開かれることになった。

西ドイツ、世界選手権返上も

ヨーロッパの消息筋が伝えるところでは、西ドイツハンドボール協会（ＤＨＢ）は、西ドイツ・オリンピック委（ＷＧＯＣ）が、モスクワ不参加を決めた場合、明後年に予定される第10回世界男子選手権の開催を返上するかもしれない。

これは、モスクワを〝棄権〟すると西ドイツは、Ｃグループ落ちが予想されるからである。

1500・3ドアCE

プレス・ルーム ＜24＞

小山敏昭
――（共同通信社運動部）―

■ジリ貧、日本のボールゲーム

韓国女子ハンドボールチームがモスクワ・オリンピック代表権を獲得した。台湾で行われたアジア地区代表決定戦で日本、台湾を下し、コンゴ・ブラザビルで行われた三大陸予選でもコンゴ、米国を破って初のオリンピック代表権を得た。

モントリオールに続いて連続出場を目指した日本にとっては残念だが、アジアの一員が他の大陸代表を下して連続代表権をものにしたことには、拍手を送らねばなるまい。まだ世界は同オリンピックのボイコット騒ぎで揺れ動いているが、モスクワで韓国が好成績を残すことを期待したい。

ところで話題を日本に戻そう。今回のモスクワ・オリンピックには日本はボール競技ではモントリオールで金メダルを取った女子バレーボールとアジア予選に勝った男子ハンドボールが参加するだけだ。（バスケットボール女子は五月にブルガリアで予選があり、水球もまだ予選が残っている）、ミュンヘン・オリンピックで金メダルを取った男子バレーボールをはじめ男子バスケットボール、サッカーは予選で敗退し、ホッケーも過去の成績が悪かったことから出場権はない。どうしてこう日本のボール競技がじり貧になってしまったのだろう。

外国勢との技術の差、体力の違いなどいろいろ挙げられるが、ひとつの要因に選手たちが日の丸をつけた日本代表チームだという意識が少なくなってきたことがあるのではないだろうか。

いまハンドボール界でも関東大学選抜や、全日本ジュニアなどが海外遠征に出かけている。二十五年前だったら海外へ行くことすら大変で、ましてや日の丸をつけた全日本ともなると国を代表してきたという意識が強かった。『外国へ行けただけでも光栄だったし、少しでも日の丸の力をみせてやろうと闘志満々だった』と男子チームの竹野監督が昔を振り返って話していた。

ナショナルチームだという意識をどうやってもたせるか―。今後ハンドボールにとっては大きな課題だが、同じ課題を予選で敗れたサッカーやバスケットボールなどでも持っていた。

サッカーがアジア予選に敗れ、その帰国報告会が過日あったときあまりに指導者が全日本という意識のなさ、やる気のなさを嘆いていたので『いっそのこと全日本をしばらく廃止してはどうか。そうすれば全日本を作ろうと思って本当にやる気のある選手がおのずと集まってくるのではないか』とたずねたことがあった。『ちょっと極端な発言すぎたな』と今は反省しているが、たぶんハンドボールでも同じような報告会があったら同じような指導者たちの〝弱音〟が出てきたに違いない。

各競技団体というより日本全体にとってこの問題は共通した課題となることは日にみえている。体協は大学強化のために『拠点制度』という西ドイツの模倣とはいえ、ユニークな考え方を打ち出し、根本的な日本のスポーツ再建を図ろうとしている。

各競技団体でも全日本の再建に早く手を打たないと、ロサンゼルス・オリンピックはボール競技の出場は『ゼロ』になってしまうかもしれない。

■分からなかった「日本チーム」

四月中旬のことだ。仕事の一つである外電翻訳にあたっていると台北発のＡＰ電で「ハンドボール・ワールドカップ」の成績が飛びこんできた。

ハンドボールにも『ワールドカップ』が誕生したのか、と初めはびっくりしたが、よくよく考えてみれば、そんな話は協会でも聞いたことはないし、外電でも読んだことはない。

そしてまたびっくりしたのが、そこに『ＪＡＰＡＮ』が出場していたことだ。

日本代表チームは、現在男女とも中国へ遠征中、なんで台湾に行っているのだろうと思い、日本協会へ電話を入れてみると、心当りがないという。三たび、びっくりだ。

それでは、どこのＪＡＰＡＮチームが参加しているだろうか、ということになったが、残念ながら日本協会では分からなかった。

これでは原稿の書きようがなく共同通信は、このＡＰ電を出さなかった。

後日（それも大会が終る頃に…）台湾を訪れていたのは、埼玉県のある男子高校チームと愛知県のある女子高校チームと分ったが、どちらも、日本協会へ無届けだった。

余談になるが、ミュンヘン・オリンピックを前にした日本ホッケーのエントリーミス事件は、一本の外電によるホッケーエントリー国一覧表の中に「日本」の名がなかったことで〝発見〟されたものだ。

日常的にふっと見逃してしまう小さな事柄の中にも、重要な問題が内在していることは多い。

今回の「ＪＡＰＡＮ」チームは台湾にいるＡＰ記者がかん違いして(?)、さも日本代表チームのように書き、打電してきたものと思われるが、海外へ行く日本の各チームは、少くとも規定の遠征計画書を出し忘れないようにしないと日本協会も、我々報道関係も困ることになる。

45名が期待の受講
今年度レフェリーコース

若く優秀な審判技術を持ったレフェリーを育成する目的で始められた「JHAレフェリーコース」は今年度、第4回を迎え、その前期が、3月28日から30日まで東京渋谷の日本体協で行われた。

今回の受講者総数（前期）は45名で、その内訳けは

学生　18名
教職員　17名
会社員　5名
公務員　4名
自営業　1名

であった。

すでに第1回から第3回まで34名の合格者を出している。

第1回合格者　14名
第2回合格者　13名
第3回合格者　7名

で、今回は、前3回をしのぐ合格者を期待したい。

また、前3回の合格者の中からすでにA級審査にも合格して、国際審判員を目指して、現在さらに技術研究をつづけ、努力を積んでいるレフェリーも、数名いる。

受講資格は、今年度までは35才までの者に与えられていたが、来年度（第5回）からは、当初の予定どおり、25才までの者となり、「若く…」が、強調されることになっている。

第4回（前期）のコースは、第1日（3月28日・金）午前10時からの受付にはじまって、第3日（30日・日）のペーパーテストまでびっしりと埋まった講議、実習などを消化した。

第1日は「復審制に関する規範について」佐野審査員が経験談をまじえて行ない、つづいて、「競技規則全般の説明」が、斉藤、鳥田両規則研究委員によって行われた。

第2日は、東京重機体育館とグランドで、実技研修（レフェリング）が行われ、そのあと、審査員から指導を受けた。

また、他の受講者は、グループに分かれてグループディスカッションを行った。

第3日は「審判に関する留意事項」について過去の実例に基づいた事項の講義が岡本審査員の担当で行われ、モスクワオリンピック・アジア地区予選のレフェリングの映写研修、第一回からの合格者とのミーティング。次いで前期ペーパーテストを実施して前期三日間の日程を終了した。

前期ペーパーテスト問題は本誌次号に掲載の予定である。

後期は、8月26、27、28の3日間が予定されている。

なお、受講者には、各都道府県大会で、5試合のレフェリングをし、各々審判長の評価を受けることが義務づけられている。

このため、日本協会審判部では都道府県協会審判長に、受講者の経験が充分つまれるような協力を望んでいる。

6月14、15日に「A・B審査」

日本協会審判部では、「昭和55年度A・B両級公認審判員」の審査を、6月14、15の2日間、関西学生新人戦によって行うことを決め発表した。

これは、過去の審査会が、関東学生新人戦で行われていたことに対し、関西地区での要望が高くなったためである。

同新人戦は、京都市の立命館大学体育館で行われ、受験者は、A級6名、B級18名。

これらの受験資格者は、今春1月の書類審査の合格者で、書類審査で不合格となった者が、今年も多かった。

書類不備の大半は、審判員手帳のミスで、次回からは、経験試合数と研修会参加の印を確実に審判員手帳に記録して申請を行うよう注意を促している。

全国大会審判員は制服を

日本協会審判部では、3年前から「制服」の問題が話題となり、検討されていたが、今年度から全国大会時の審判会議、開・閉会式大会々場で統一した服装で参加することに決めた。

この服装の経費一式四万円は、各審判員負担で、ブレザーコートスラックスのほか、夏用半袖シャツ、ネクタイ、ワッペンなどとなっており、現在、三陽商会で製作中。

申しこみは、日本協会で受けつけ（所定用紙）ているが、今年度申しこみをしなかった場合は、来年度必ず申しこみをされるよう、審判部では望んでいる。

（注・審判部では、今年度の全国大会（高校総体以降）の審判員と日本リーグの審判員は、全員制服を着用して、大会に参加するよう審判会議で決定されている、と発表している。）

日本リーグ9月21日、旭川で開幕

日本リーグは、4月13日東京で運営委員会を開き、今秋の第5回リーグの日程などについて協議した。

すでに決定のとおり、今年度はオリンピックイヤーのため、男女とも1回総当りに縮少しての開催日程も9月21日旭川で開幕、11月29日東京で閉幕の予定。しかもこの間、全日本男子の北朝鮮遠征（10月3～10日・予定）栃木国体（10月13～17日）が含まれている短期決戦だ。

参加チームは、男子1部が、大同特殊鋼（愛知）、湧永薬品（広島）、本田技研鈴鹿（三重）、日新製鋼（広島）、三陽商会（東京）の6チーム、女子1部がジャスコ（三重）、日本ビクター（茨城）、ブラザー工業（愛知）、日立栃木（栃木）、立石電機（熊本）、大崎電気（埼玉）、北国銀行（石川）、東京重機（東京）の8チーム。

2部は、男子が大崎電気（埼玉）、三景（東京）、トヨタ車体（愛知）、自衛隊勝田（茨城）、セントラル自動車（神奈川）、日鉄建材（大阪）、女子が大和銀行（大阪）、ムネカタ（福島）、和歌山県商工信用組合（和歌山）である。正式日程は7月上旬発表の予定。

なお、今年度から個人賞に「PT最多得点賞」が設けられることになった。

本会人事

日本協会は、4月10日付で、加納励二郎氏を事務局長に新任した。

第6回全国教員養成大学ハンドボール研修会要項

このたび，下記要項の通り，将来教員となる教員養成大学の男女学生を対象に文部省の補助金をえて合宿によるハンドボール研修会を開催します。ハンドボールの正しい理論と実技を通じて，楽しいハンドボールを体得していただき，全国津々浦々に到るまで，広くハンドボールの愛好者を一人でも多くふやしていきたいと願っております。

比較的ハンドボールチーム数の少ない地方の大学，又新しくハンドボールチームを結成したい学生，そして将来教職についたときのために指導法を習得したい人こそ是非共ふるって御参加下さるよう御案内致します。

1．目　　的　全国の教員養成大学の学生を対象に，合宿研修を行ないハンドボールの競技の正しい理論を理解し，新しいハンドボールの実践を通して，楽しいハンドボールを十分体験し，当面の学園生活を豊かにするとともに，有為な指導者に必要な資質の向上をはかることを目的とする。

1．主　　催　日本ハンドボール協会（東京都渋谷区神南2－2，TEL03－467－7097）

1．後　　援　文部省　日本体育協会

1．会　　場　筑波大学・体育館及びグラウンド
〒300-31　茨城県新治郡桜村天王台1－1－1　Tel. 0298－53－2635

1．期　　日　昭和55年8月17日～20日　3泊4日

1．参加資格　全国の国公私立の教員養成大学（学部学科含む）の男・女学生であること。

1．申 込 み　○技術研修への参加一原則としてチーム単位（7名～10名），特に地方大学及び新しく結成されたチームを優先する。
参加人員（100 名）に制限があるので，定員になり次第〆切る。
参加希望者及び参加希望チーム代表者は別紙参加申込書に参加料を添え6月30日まで必着する様申込手続きをすること。
申込み先　〒300-31　茨城県新治郡桜村天王台1－1－1　筑波大学体育科学系　大西武三宛

1．経　　費　参加料1人　5,500円 現金書留にて上記に郵送のこと。
研修期間中の宿泊費は（8月17日朝食～20日朝食）日本ハンドボール協会が全額負担する。
期間の前日の宿泊費，夕食も日本ハンドボール協会が全額負担する。（16日16時に筑波大学平砂宿舎共用棟にて受付をすること）又，旅費の一部を日本ハンドボール協会が補助する。

1．指 導 者　日本ハンドボール協会競技委員，普及委員，と強化委員。

1．研修方針
①　従来より時間的な余裕をもたせる
②　指導者の数を増すことによって，チームや個人の状況に応じた指導をする
③　技術とゲームの関連を明らかにしながら指導する
④　参加者の要望に応じて，指導の内容を決定する
⑤　Q and A を指導者と参加者の間で積極的に行なう

日本協会専門委員会だより

競技

今冬12月16日から20日まで東京体育館で開く第32回全日本総合選手権の参加チームは、昨年と同じ、男子24、女子16チームで行うことに決まった。

これは、2月の全国代議員会、同理事会で申し合わされたもの。

その内訳は、男子が日本リーグ推せん8(2部2位まで)、全日本学連推せん5、全日本実連推せん3、全日本教職員連推せん3、全日本自衛隊連推せん1、全国社会人東地区、中地区西地区代表各1、開催地1、女子が日本リーグ推せん8、全日本学連推せん4、全日本実連推せん2、全国社会人代表1、開催地1となっている。

全日本総合選手権は、48年以来、その性格、参加チームの内訳について検討が加えられてきており、「地域代表制」によるチャンピオンシップを"理想"としている。

しかし、このシステムに移行するには、全日本総合選手権の要綱だけを改訂しても解決はつかず、日本リーグを含め、あらゆる全国大会を関連して考慮しなければならない。

当然、ブロック大会、地方大会も深く関わりを持つようになり、簡単に、新構想には移り切れない。

現時点では、徐々に地域性の色を濃くしていく以外にないというのが、競技委員会の結論であった。

このため、全国会議では、新構想移行問題の検討を、当分休止し32回大会以降も、しばらく現行システムを継続することが決議された。

ただし、全国会議では、競技方法例えば1、2回戦を地方で行ない、準々決勝以降を東京で開催、あるいは男女分割開催などの検討は、今後もつづけるべきだという意見が多かった。

また、35回あるいは40回を一つの区切りの目標として、日本リーグ勢と学連上位、実連上位に"濃縮"した大会にする提案も出ている。これは47都道府県協会の総合選手権を最底辺として、順次つみあげていく「地域代表制」とは真反対の考えであり、こうした意見が出るのも、この問題の難しさを物語る。

また、日本リーグ、全日本総合は、あくまでトップレベルを競うハードな大会とし、国体(成年)は市民スポーツ的なソフトな大会とする検討は今後もつづける。

強化

強化部コーチ群の一部修正にともなうコーチの補充は、本誌前号でも伝えられたとおり、男女あわせて12氏の新任を委嘱中だが、4月20日までに男子の平岡秀雄、北岡覚宍倉保雄の三氏が承諾、女子も緒方嗣雄、藤原侑、笠原利宏の三氏の承諾が明きらかにされた

しかし、男子で一氏、女子で二氏が辞退を申し出ているほか三氏が態度を保留している。

また、3月26日付で、女子の白神邦雄氏からコーチ辞任が届出られている。

荒川強化部長(理事長)は、5月上旬には、全コーチングスタッフを発表したい意向で、最終的には、男子が竹野奉昭監督を含む11氏(うち早川清孝氏は西ドイツ留学中)、女子が池田鉄哉監督を含む8氏に落ちつきそうだ。

藤原、北岡新コーチは、強化委員もつとめているが、当分の間"兼任"となる。

このほか、強化部総務群の充実を企るため、元日本協会総務担当常務理事の杉山茂氏に委員新任を折しょう中。

なお、新年度第1回の強化委員会は5月17日午後4時30分から名古屋市体育館で開かれる。

強化部総会は6月中旬東京の予定。

◇

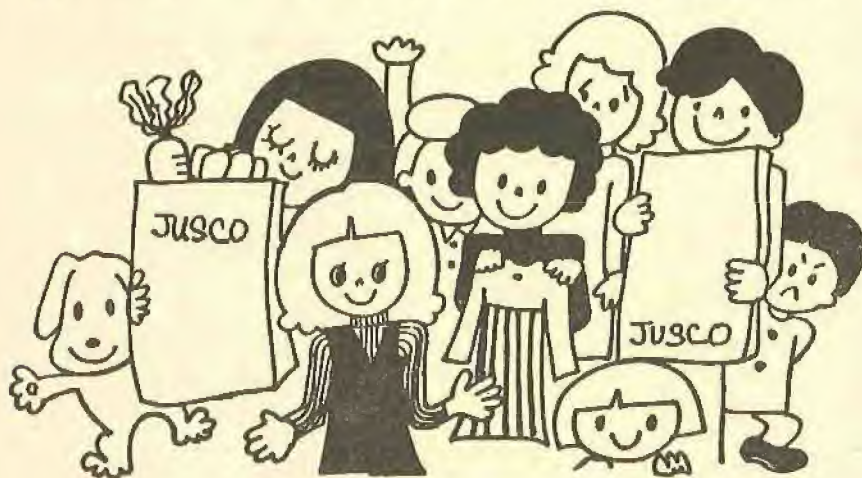
アジア代表権奪還を目指す全日本女子は、一九八二年(昭57)の世界女子選手権に向けて再スタートを切るが、その強化合宿スケジュールは次のとおり。

荒川強化部長と池田監督は、六月の全日本女子実業団選手権(名古屋)後、早急に、四月の中国遠征メンバー(本誌前号5頁所報)を主体としたナショナル選手名簿を発表の意向である。

(全日本女子強化合宿日程)

▽第二次 7月1~7日・プラザ工業▽第三次 8月11~18日・日本ビクター▽第四次 11月17~25日・立石電機▽第五次 56年1月19~26日・日立栃木▽第六次 9月16~23日・大崎電気▽第七次 3月9~15日・東京重機(注・第一次は4月1日~9日・日本ビクターで終了)

このほか、全日本女子ジュニアが8月14~18日、56年1月19~26日、3月9~15日と3回の強化合宿を予定している。

暮らしへの奉仕を合言葉に。

東京本社 東京都千代田区神田錦町1－1
大阪本社 大阪市福島区大開1－8－8

THE BEST PARTNER FOR EVERY SPORTSMAN BEAR 1979

補強万全。

ハンドベアー。革+ミシンステッチの威力!

ハンドベアーの補強は4つの革と幾重にも縫いこまれたミシンステッチ。
ツマ先を守るフロントプロテクター、踵を守るリアプロテクター、左右を守るサイドプロテクター等、どのポジションの足にも耐えられるこれらの補強は、アッパーを守るだけでなく型くずれ防止にもなっています。そして、二重のスポンジクッションとフットワークのロスを解消するモールド底と共に軽快な足給いを約束しハードな動きに対する足への保護はまさに万全です。

リアプロテクター
サイドプロテクター
フロントプロテクター

HAND BEAR

●サイズ/22.5～29 ●カラー/ブルー×白ライン ●¥3,500

BEAR
ベアー株式会社

◇日本協会加盟団体リポート ＜全日本実業団連盟＞

全日本実連は、このほど55年度の行事予定を次のように決めた。

今年度は、日本リーグが後期のみ一回総当りに〝縮少〟されたこともあり、当連盟のメインイベント全日本実業団選手権を、男女とも上半期に間(ま)をおいて開くことにした。

また、懸案のブロック実業団選手権は、関東が10年ぶりに復活を内定している。

一、第二十一回全日本実業団選手権大会（女子の部）昭和五十五年六月五日（木）から八日（日）まで。愛知県体育館にて開催。参加チーム＝日本ビクター、ブラザー工業、ジャスコ、東京重機、日立栃木、立石電機、大崎電気、ムネカタ、北国銀行、大和銀行、和歌山県商工信用組合、他一～二チームの予定。

二、第二十一回全日本実業団選手権大会（男子の部）昭和五十五年八月三十一日（会議・開会式）九月一日（月）から三日（水）まで大阪市中央体育館。参加チーム＝大同特殊鋼、湧永薬品、本田技研鈴鹿、三陽商会、日新製鋼、大崎電気、三景、自衛隊勝田、東京重機、新日鉄大分（いずれも予定）

三、第十二回全国実業団男子トーナメント大会。昭和五十六年二月八日より二月十一日まで。神戸市中央体育館、神戸市王子体育館、参加チーム＝第二十一回選手権大会の九位、十位チーム。トヨタ車体、日鉄建材、丸善石油下津、新日鉄名古屋、大阪ガス、自衛隊下総、開催地一チーム、（優先参加）のほか東北、関東、中部北陸、近畿、中四国、九州、自衛隊、各ブロック予選の結果二十三チームを決定、合計三十二チームによるトーナメント方式で争う。この大会の上位二チームは翌年度選手権大会に参加資格を得る。

四、第八回実連ジュニアー合宿、自衛隊での体験入隊ということで各企業でも非常に好評の為今年も実施を予定。昭和五十五年九月二十日過ぎ、詳細は未定。

来月、韓国男子が来日

五、国際関係①第八回日韓社会人男子交流、昭和五十五年六月下旬頃韓国チーム来日、詳細は接渉中五試合予定。

②第九回日韓社会人ハンドボール女子交流、昭和五十六年三月頃韓国チーム来日希望。

六、その他、㈠女子チームの拡充㈡「社会人連盟」としてクラブチームとの地方での合同試合、㈢自衛隊連盟との関連、㈣東西対抗戦の実現㈤大学チームとの交流試合㈥韓国以外の海外交流㈦日本リーグ、二部リーグとの関係など多くの課題をかかえているが日本協会の法人化とともに大きく飛躍の年にしたいと考えている。

「全国クラブ連盟」の設立を熱望

クラブ担当者会議小委員会
望月　孝（静岡）

過去三回の全国クラブ静岡大会を終り、第四回京都大会を向えるにあたり、クラブ担当者会議の小委員会が二月十日京都・三月二十三日名古屋にて開かれ、京都大会の名称並びに運営及び、「全国クラブ連盟」発足について討議を行ないました。

京都大会の名称については、これまで使用出来なかった「選手権大会」の名称を使用出来る様日本協会に、近畿協会を通すとともに大西武三普及部長にお願いして、働きかけることとし、同時に、早く「クラブ連盟」を発足させて、全国大会が主催出来る様、運動することを申し合せました。このような会議が発足したのは、去る五十一年、当時日本協会普及部長の勝繁夫氏の音頭により登録数が一番多く、また各都道府県協会の主柱となって居るクラブチームの存在にもかかわらず、連盟も大会もないので、これを実現すべく議題とした「全国クラブ担当者会議」を開いたのがきっかけでした。この最初の会合で小委員会を発足させ、全国連盟と全国大会の発足を討議する事となり、五十二年春初会議を開き、ここで連盟の設立の足がかりとして全国大会の開催を決定、静岡県協会が第三回迄の開催を引き受け、この間に全国連盟の発足を申し合せたわけです。静岡大会を開催するにあたり当時静岡県協会の理事長の片瀬喜代次氏をはじめ役員の方々には大変にお世話になりました。又東京都クラブ連盟の村田稔理事長の厚意により審判員二名を三日間派遣を頂くなど、この様な関係者の皆様の協力を得てクラブの連盟発足の準備が少しづつ進められ、大会の都度各チームより連盟の発足と、連盟公式の大会が開催出来る様要望されて来ました。

二回の委員会の結果、各委員の方々が各ブロックごと、都道府県のチーム数の把握を行って、この結果を日本協会に提出し、働きかけを強めることになり、一方、全国都道府県クラブ担当者の会議を開き連盟設立を企る、各ブロックの連盟を発足させる活動もつづけることとし両面よりクラブ問題を進めて行くことにしていたわけです。一地方協会で全国大会を開催するには経費面で大変な努力がいり、静岡大会はもちろん、岐阜大会でも同様資金集めに役員のかたがたがほんそうされたわけです。この様な状態ですから一日も早く「全国クラブ連盟」を発足させて経費面からも援助出来れば今後の大会もスムースに開催出来るかと思うわけです。日本協会の理解と各地方協会の協力を得て、「全国クラブ連盟」の実現を念願しています。

（小委員会出席者）▽京都会議＝村田（東京）、望月（静岡）、山中（大阪）、田島（岐阜）、小西京都協会理事長、吉田京都協会副理事長▽名古屋会議＝山中（大阪）、望月（静岡）、西村（愛知）、大田（愛知県クラブ連盟会長）大西日本協会普及指導担当常務理事、伊藤日本協会理事

日本協会との調整が必要

○…本誌前号既報のように「全国クラブ大会」問題は、2月の全国会議（代議員会、理事会）以降新たな局面を迎えているが、別掲のとおり「クラブ担当者会議」は過去3年の〝実績〟をスプリングボードとして、かなり具体的な要求を掲げ、日本協会の協力を求めていることが明きらかとなった。

卒直のところ、クラブ担当者の熱意に比べて、日本協会執行部のこの問題に関する姿勢は、充分といえない。

これは、日本協会がクラブの活動は、全国規模よりも、最大、ブロック規模までが望ましいとして昭和45年度に「ブロッククラブ選手権」の開催を奨励、発足順に、日本協会杯を贈るなどの施策をつづけているからだ。

しかも、これらのブロックチャンピオンを東、中、西の三地区に集結させ、勝者に全国社会人代表として全日本総合選手権への出場権を与えている。つまり、日本協会はそれなりに、これまでもクラブ対策を打ち出していたのだ。

それだけに、近年のクラブ側の情熱の高まりも、一つの動きとみてはいるものの、日本協会として積極的な支援体制は布かずに、過してきた。

岐阜、静岡両大会も普及指導部が関与はしたものの、執行部のなかには、「ブロック大会を促進させる一方で、この活動に水をさすような全国大会を〝公認〟するのは望ましくない」とする意見が根強く、あくまで地方協会の主催するプライベートトーナメントの協賛として〝処理〟されている。

○…しかし、日本協会・荒川清美理事長は、以前から「機が熟せば、クラブの全国選手権を考りょする」ともいっており、その具体的な動きとして、今年度内に、クラブの実態を完全掌握する（＝既報）よう関係セクションに指示している。

これから推せば「全国クラブ連盟」や「全国クラブ選手権」の発足は、時間の問題のような気もするが、荒川理事長の腹案は、あくまで、これまで育成してきたブロック・クラブ選手権を母体に、全国組織を確立させようとしており岐阜カップや静岡カップをきっかけとした自然発生的な〈全国活動〉と、同一線上に並ぶものではなさそうだ。

ここらあたりの調整を充分にしておかないと、いざ「選手権」なり「連盟」なりを発足させる段になって、混乱を招きかねないし、「クラブ担当者会議」のこれまでの骨折りがムダになる。

参考までに各ブロッククラブ選手権の発足年度は次のとおりである。

北海道＝昭和46年度、東北＝53年度、関東＝46年度、北信越＝54年度、東海＝45年度、近畿＝45年度、中国＝男子は31年度からの「中国一般選手権」で代行、女子は48年度、四国＝47年度、九州＝男子は40年度からの「九州選手権」で代行、女子は46年度。

関東学生選抜（男女）ヨーロッパ遠征

関東学連恒例のヨーロッパ研修遠征は、今年3回目を迎え、2月26日から3月12日まで総勢47人（役員11、選手男・21、女・15）が西ドイツ（主としてヘッセン地域）、フランス（パリ）を転戦して行われた。

連続3回出場者も含まれるなど日本側に〝遠征なれ〟がのぞき、本場の技術習得、個人のレベルアップなど、充分に目的を達成する遠征となった。

対戦成績も、男子が8戦4勝1分3敗、女子が7戦6勝1敗と、これまでにない好成績をおさめた。

男子

▽第1戦（2月28日）

SV・ゾイーベル 16（7—8、9—6）14 関東学生

【関東】

	選手	得
GK	譲原	0
GK	井藤	0
FP	村崎	3
FP	平野	2
FP	藤川	0
FP	三尾	2
FP	佐藤	2
FP	植村	4
FP	平井	0
FP	富永	1
FP	塚田	0
FP	酒井	0
		14

・その他の出場者▽FP永井、岡田佐々木いずれも得0

（相手メンバーなし）

○…関東は立ちあがり速攻で4—0としたが、ゾイーベル（西ドイツ3部リーグ）も強引なタテへの攻めで追いあげ、後半5分には逆に関東が追う立ち場にまわされた。このあたり、即席の混成チームという弱味が出たともいえる。

▽第2戦（2月29日）

関東学生 21（12—7、9—10）17 マールブルグ第一選抜軍

【マールブルグ】

	選手	得
GK	ヘンケル	0
GK	シュミット	0
FP	ホフマン	0
FP	ストレメル	1
FP	コールバーガー	1
FP	スモルカ	4
FP	レムメント	2
FP	ハイメル	1
FP	ソーター	7
FP	ネッシュ	1
FP	ベイゲル	0
FP	フイスマン	0
		17

【関東】

	選手	得
GK	井藤	0
GK	譲原	0
FP	村崎	8
FP	東根	3
FP	溝部	3
FP	尾上	4
FP	藤井	2
FP	三本松	0
FP	酒井	1
FP	松原	0
FP	平野	0
FP	永井	0
		21

・その他の出場者▽FP平井、佐々木、関口いずれも得0

○…人気のブンデス・リガ（全国リーグ）を一部とすれば、きょうの相手は西部、それも一地域だけのピックアップチーム。

混成同士らしく、関東は村崎、マールブルグはソーターの個人技を軸に試合を展開。ソーターをマークするとスモルカのポストに得点を奪われるというチグハグなディフェンスだったが、GK井藤の好守で逃げ切った。

▽第3戦（3月1日）

関東学生 15（7—10、8—5）15 マールブルグ第二選抜軍

引き分け

【関東】

	選手	得
GK	井藤	0
GK	譲原	0
FP	植村	5
FP	酒井	3
FP	永井	1
FP	塚田	1
FP	佐藤	0
FP	三尾	0
FP	松原	1
FP	関口	4
FP	岡田	0
FP	平井	0
		15

・その他の出場者▽FP平野、富永、藤川いずれも得0

（相手メンバーなし）

○…この日も関東はディフェンスのコンビがととのわず、攻めてもノーマークを落すなどして苦しんだ。しかし、後半、どうにかリズムが出て22分14—13と逆転したのだが、このリードを守り切れず引き分けにもちこまれた。

西ドイツ学生を追いこむ

▽第4戦（3月2日）

西ドイツ学生ナショナル 21（12—9、9—11）20 関東学生

○…全国リーグで活躍するメイ、シブスキッド、バルドハイムらを呼び寄せた西ドイツ学生ナショナルは、速いクロスプレーからロングを決め、関東ディフェンスの間隙をついた。

これに対し関東は、全員の速い動きとパスワークのなかから、村崎が、ディフェンスのブラインドをついたシュートを放ち、また、尾上の速攻、溝部のサイド攻撃などで応酬、激しい点のとりあいになった。

【関東】

	選手	得
GK	井藤	0
GK	譲原	0
FP	村崎	12
FP	佐々木	0
FP	尾上	4
FP	東根	0
FP	溝部	3
FP	藤井	1
FP	佐藤	0
FP	三尾	0
FP	酒井	0
FP	岡田	0
		20

【西ドイツ学生】

	選手	得
GK	ボーエル	0
GK	H・P・ブレーム	0
FP	ヴィッシュマン	3
FP	ベイドマン	3
FP	メイ	3
FP	ワグナー	2
FP	シブスキッド	4
FP	ショーン	4
FP	バルドハイム	1
FP	シールデ	1
FP	テスクナー	0
FP	シコラ	0
		21

・その他の出場者▽FP三木松、藤川、富永いずれも得0

しかし、後半13分11—17と関東は押しこまれ、一方的に突き放されるかと思ったが、そのあとGK井藤や佐々木の好守に助けられ失点を最少限に留め、反撃のチャンスをつかんだが、あまりにも、それまでの傷口が深く、追いつけなかった。（綿貫敏雄・男子監督）

▽第5戦（3月4日）

関東学生 24（14—11、10—11）22 TV・グラッドバッハ

【グラッドバッハ】得
GK ラウシュ 0
GK ベルグラン 0
FP ヴルーニッヒ 0
FP ベウセル 0
FP シュルツ 1
FP パット 3
FP ヴィリッツグ 5
FP ミューラー 2
FP ベルグマン 1
FP ステンガー 6
FP ベンデル 0
FP フリュース 4
22

得【関東】
0 讓原 GK
0 井藤 GK
4 平野 FP
0 佐々木 FP
1 藤川 FP
6 村崎 FP
3 三本松 FP
5 植村 FP
0 関口 FP
0 三尾 FP
2 富永 FP
3 佐藤 FP
24

・その他の出場者▽FP岡田、東根、平井いずれも得0

○…関東の攻撃が冴えて、余裕のある試合運びをみせたが、22－15の後半になると疲れがのぞき、リードをあっという間に22－20まで追いこまれた。五部リーグの所属とはいえ、ちょっとしたスキをついてくるパワーはヨーロッパならではのものだ

▽第6戦（3月5日）

関東学生 21（8－6、13－8）14 TVGG・ロルシエ

【ロルシエ】得
GK セイラー 0
GK オール 0
FP シュスター 5
FP テイツマン 1
FP P・ヘルレ 1
FP H・ヘルレ 3
FP ストルーデル 0
FP ダウブ 3
FP ミシュラー 0
FP マッケ 0
FP バーリング 1
FP ビーガント 0
14

得【関東】
0 井藤 GK
0 讓原 GK
1 永井 FP
1 三尾 FP
1 松原 FP
1 関口 FP
4 尾上 FP
5 溝部 FP
3 酒井 FP
1 藤川 FP
0 富永 FP
1 藤井 FP
21

・その他の出場者▽FP佐々木得3、塚田、平井ともに得0

○…立ちあがり、関東は、相手のタテブロックからのポストプレーに守備陣形を崩され得点を許したが、速攻が比較的よく決まったため試合の主導権を握れた。

このクラス（四～五部）の相手なら少々のリードを許しても、充分、反撃できる。

▽第7戦（3月6日）

関東学生 26（13－11、13－13）24 SG・VfR・ブロウギルフ・ゲルマニア

【ブロウギルフ】得
GK ヘルシュ 0
GK シュミット 0
FP ヤコブス 0
FP ファプキム 0
FP グニメルス 3
FP エーレンスハイム 2
FP ブッシュマン 3
FP グリム 3
FP ハウト 1
FP ドン 3
FP クローネン 4
FP バステルス 5
24

得【関東】
0 讓原 GK
0 井藤 GK
9 村崎 FP
6 植村 FP
2 岡田 FP
2 平野 FP
1 藤川 FP
1 東根 FP
2 佐藤 FP
2 三本松 FP
1 松原 FP
0 三尾 FP
26

・その他の出場者▽FP関口、塚田、平井いずれも得0

○…ヴィスバーデンに本拠をおくブロウギルフは上り坂のチーム

関東も〝外人なれ〟して攻守とも好テンポ、激戦となった。

もつれあいながらの終盤、関東は、植村が相手ディフェンスを強引に割るシュート、平野の速攻、村崎のロングなどで連続得点、ペースを握り、西ドイツ最終戦を勝利で飾った。

パリ選抜を苦しめ抜く

▽第8戦＝最終戦（3月9日）

パリ選抜 23（14－9、9－11）20 関東学生

○…パリ選抜はフランス・ナショナル、同ジュニアナショナルのメンバーを揃えた強チーム。関東の苦戦はさけられないと思えた。

しかし、前半、関東は尾上、藤井の速攻などで20分8－6とリード、そのあとPTで同点にされたが、三木松の巧技から再び優位に

【関東】得
GK 井藤 0
GK 讓原 0
FP 三本松 5
FP 尾上 8
FP 藤井 2
FP 溝部 3
FP 村崎 2
FP 佐藤 0
FP 植村 0
FP 東根 0
FP 平野 0
FP 佐々木 0
20

得【パリ選抜】
0 ブーレ GK
0 メダルド GK
5 ゲルマイン FP
3 メジャン FP
1 クーリオル FP
2 セリネ FP
2 ガイロー FP
1 デソローセ FP
0 デサンブ FP
2 マレブーレ FP
3 プルシエチ FP
4 ベルナルド FP
23

立ち、前半を終えた。

後半もなかばまで3点のリードをとり、場内を沸かせたが、ここらあたりから急激に疲れがのぞき攻防ともに精彩を欠いた。

パリ選抜は、この機を逃さず、メジャン、ゲルマインの好連けいなどで追いあげ、21分18－18となった。

こうなると、パリは勢いづき22分PTで19－18と、関東は初めてリードを許した。23分三木松が同点シュット、期待を持たせたのだが、パリの調子は完全に上向き、そのあと4点を叩きこんで、関東を突き放した。

男子・綿貫敏雄監督の話　今シーズンの西ドイツは全国リーグの日程が詰まり、A級チームと対戦できなかったが、それにしても関東学生は、よく戦ったと思う。

個々の選手では、井藤が全日本メンバーらしいプレーで、相手側からも賞讃をうけた。攻撃陣では村崎、尾上の両左腕がパワーアップするなど、収穫をあげた。

欧州遠征関東学生選抜メンバー

・団長　福地　賢介（関東学連理事長）
・総監督　藤原　侑（関東学連理事）
・総務　清水　宜雄（筑波大OB）

＜男子＞
・監督　綿貫　敏雄（明星大監督）
・コーチ　岡本　研二（茨城大監督）
・主務　岡田　茂（日　体）
　　　　安田　博之（日　体）
・GK　◎井藤　英忠（日　体④）185cm
　　　　讓原　昭（早稲田④）183
・FP　酒井　信幸（日　体④）173
　　　　溝部　潔（日　体④）177
　　　　平野　隆一（日　体④）172
　　　□佐々木　功（日　体②）188
　　　　村崎　広（早稲田④）182
　　　　東根　明人（早稲田②）170
　　　　植村　彰（早稲田④）180
　　　　関口　直人（早稲田②）183
　　　　松原　宜正（中　央④）180
　　　　藤井　泉（中　央③）180
　　　□尾上　良正（中　央③）179
　　　　三本松俊雄（国士館④）180
　　　　佐藤　昌宏（国士館④）181
　　　　塚田　正明（明　治③）176
　　　□平井　裕康（明　治③）183
　　　　三尾　良之（順天堂④）188
　　　　藤川　朗（東　海④）178
　　　　富永　保（茨城大④）178
　　　　永井　雅巳（日　大②）180

＜女子＞
・監督　高野　亮（東女体大監督）
・コーチ　坂村　紀子（日体女子コーチ）
・主務　岡崎　智美（日　体）
　　　　大串まゆみ（東女体）
・GK　高松ひとみ（東女体④）159cm
　　　□藤井美智子（日　体③）169
・FP　鈴木　紀子（日　体④）153
　　　　石島　訓子（日　体④）153
　　　　鈴木　早苗（日　体④）158
　　　□石井　幸（日　体③）161
　　　　原田　文子（日　体③）158
　　　　加藤　典代（日　体③）167
　　　□藤本　陽子（東女体④）160
　　　　浜村　尚美（東女体④）153
　　　　小野森幾子（東女体④）158
　　　　鈴木智恵子（東女体②）163
　　　　大島　里美（日女体③）157
　　　　島袋　弘美（日女体②）156
　　　　富永　文江（茨城大③）155

・○内数字は学年
・◎印はナショナルチーム
・□印はジュニアナショナルチーム

女子

▽第1戦（2月28日）

関東学生 13（6－4、7－5）9 SG・ブルックコーベル

	【関東】	得
GK	高松	0
	藤井	0
FP	藤本	5
	鈴木早	0
	鈴木紀	3
	加藤	3
	浜村	1
	小野森	0
	石井	1
	富永	0
	鈴木智	0
	島袋	0
		13

○…3年目にして緒戦勝利を飾ることができた。

しかも相手は2部リーグ南西ゾーン北地区4位の有力クラブ、主力にナショナル経験者の顔もみえた。

▽第2戦（2月29日）

関東学生 12（5－3、7－7）10 TSV・キールヘンハイム

	【キールハイム】
GK	シュライン
FP	ケプラー
	シック
	B・ジーフェルト
	ゲルシュウスキー
	U・シュミット
	C・ジーフェルト
	ロキシン
	スナイダー
	デーンハルト
	10

得	【関東】	
0	藤井	GK
0	高松	
1	原田	FP
1	浜村	
0	石島	
1	鈴木紀	
5	鈴木早	
3	藤木	
0	大島	
0	富永	
0	小野森	
1	加藤	
12		

（キールヘンハイムの個人得点不明）

○…相手は前日と同じ2部リーグの所属。残り5分9－9のタイから、関東は3点をたてつづけに奪い勝利を決めた。

キールヘンハイムの攻撃も、女子にはめずらしくロング、ポストサイドと多彩だった。

▽第3戦（3月1日）

関東学生 28（14－2、14－3）5 マールブルグ選抜

	【マールブルグ】	得
GK	M・O・レーン	0
	サメエ	0
FP	ヨルゲ	0
	フェルシュハイム	1
	ロシエル	1
	ヘディック	0
	ペインフラント	0
	パウル	2
	ダウメ	0
	カーレッシュ	1
	ヘルゲス	0
	スジイダット	0
		5

得	【関東】	
0	高松	GK
0	藤井	
4	石島	FP
1	鈴木早	
5	加藤	
4	鈴木智	
4	石井	
0	鈴木紀	
3	大島	
1	島袋	
4	藤木	
1	富永	
28		

・その他の出場者【関】▽FP原田得1、小野森、浜村ともに得0。【マ】▽GKエルベス得0

○…立ちあがりこそ2－1とせりあったが、脚力にまさる関東はしだいに相手のディフェンスをゆさぶっては突破、15分8－1と大差、後半はメンバーを次々と代えて楽勝した。

▽第4戦（3月4日）

関東学生 20（11－2、9－7）9 TV・ヘスバッハ

○…後半に疲れをのぞかすものの、関東の試合ぶりは元気いっぱい。前半、得意の速攻で、昨日につづく快勝となった。GK高松の好守がスタンドを沸かせた。

	【ヘスバッハ】	得
GK	ブリュクラー	0
FP	ロウシェ	0
	グルレット	0
	パイクホフ	0
	クルッツ	1
	ワグナー	2
	オルシェル	1
	ボルケス	0
	ポティカ	3
	ロイクス	1
	グリップ	1
		9

得	【関東】	
0	藤井	GK
0	高松	
7	加藤	FP
1	大島	
3	藤本	
1	富永	
1	鈴木早	
2	鈴木智	
1	島袋	
3	浜村	
0	小野森	
1	原田	
20		

・その他の出場者【関】▽FP鈴木紀、石島、石井いずれも得0、【ハ】▽FP。ティ得0

▽第5戦（3月5日）

関東学生 21（10－3、11－4）7 TVGG ロルシェ

	【関東】	得
GK	高松	0
	藤井	0
FP	藤本	2
	石島	4
	石井	0
	加藤	8
	浜村	3
	原田	1
	鈴木智	1
	鈴木紀	1
	鈴木早	1
	小野森	0
		21

（ロルシエのメンバーなし）

○…第4、5戦とも地域（三～五部）リーグの下部クラス。ここらあたりでは、もはや、関東の敵ではない。第4戦同よう前半で勝負を決めた。

西ドイツ転戦で6連勝

▽第6戦（3月6日）

関東学生 16（8－8、8－2）10 SW・バイスバーデン

○…西ドイツではめずらしい学生主体のバイスバーデンは、上位リーグを狙っているだけあって元気いっぱい。関東は10分2－4と久々にリードを許した。

	【バイスバーデン】	得
GK	シス	0
	ブロッセ	0
FP	フレバー	0
	パンスキー	0
	ハショール	1
	ケンペニッヒ	1
	ベレンス	4
	ピロポトウスキー	0
	シマシェフ	2
	ヴィトメフ	0
	レドウイッヒ	2
	ロシエ	0
		10

得	【関東】	
0	藤井	GK
0	高松	
1	藤本	FP
0	小野森	
2	鈴木早	
0	富永	
2	鈴木紀	
0	石島	
1	浜村	
7	加藤	
2	石井	
1	原田	
16		

関東は前半なかば攻撃にテンポが出たが、バイスバーデンも粘り強さをみせ、一進一退となった。

後半10分10－9から関東はようやく連続得点、相手の疲れに乗じてたたみかけ、西ドイツでの全日程を勝利で終えた。

パリ選抜には苦杯

▽第7戦＝最終戦（3月9日）

パリ選抜 26（10－6、16－10）16 関東学生

	【関東】	得
GK	高松	0
	藤井	0
FP	藤本	1
	加藤	7
	原田	1
	鈴木紀	2
	鈴木早	2
	浜村	1
	石島	0
	石井	2
	鈴木智	0
	小野森	0
		16

得	【パリ選抜】	
0	ボラゾウ	GK
0	リバル	
0	ムーリエール	FP
6	シャリエ	
6	デュラン	
1	セロイ	
6	ベコー	
4	ベトリュウ	
2	バロス	
0	ルッセル	
1	マンバック	
26		

・その他の出場者▽FP島袋、大島、富永いずれも得0

〇…西ドイツでの6連勝は、フランス協会にも伝わっており、パリ選抜は、ペコー、デュラン、シャリエ、パロスらのナショナルプレイヤーを軸に、ベストメンバーを布いて待ちかまえていた。

一方、関東は、西ドイツからの移動でコンディションを狂わした選手が多く、この差が、序盤にはっきり出た。

関東は立ちあがりこそ5分1－1と五角だったが、そのあと14分までに連続5点を失ない、パリに主導権を握らせてしまった。

関東もチャンスはあるにはあったのだが、シュートが甘くポイントをあげられずに過ぎた。

前半なかばすぎから関東は攻撃にリズムがのり、後半の反撃に望みをかけたのだが、3、4分連続ゴールを奪われ6－12、ここで大勢を決められたといっていい。

〇…西ドイツが、どちらかといえば、個人の突進力、シュート力を主軸にプレーが構成されているのに比べ、フランスは「地味だが基本に忠実なプレーが多い」（福地団長の話）。関東学連では、来春の第4回遠征からフランス転戦も考りょする意向だ。

女子・高野亮監督の話 前2回よりチームとしてのスケールは小さい感じだったが、対戦相手が下部リーグのせいか西ドイツでは、ベンチが驚くほどの試合ぶりで勝ち放せた。日本の"速さ"は、今回も効果のある武器で相手側の評価も高かった。なお、今年の西ドイツの試合は25分ハーフで行われた。（注・前回は一部の試合が30分ハーフ）

個々では加藤がすっかり自信をつけ、今後に楽しみを抱かせる。

仏で世界学生検討

フランスのスポーツ紙「レキップ」は、フランス学生スポーツ連盟が、休会中の世界学生ハンドボール選手権を今冬12月、主催するよう検討中であると伝えた。

全日本学連は、本誌既報のとおり、開催されれば参加する意向。

欧州遠征をふり返って

藤原　侑
（遠征選手団総監督）

予定通り二月二十六日成田発二十二時三十分にて、フランクフルトに向け出発し選手団総勢四十九名は、全員元気で到着し、スポーツシューレでの生活が始まった。西独では男女共六試合の予定であったが男子が一試合増加されてうれしい悲鳴をあげることとなった。

選手達を平等に少しでも多く試合に出場させることができるには……ということで頭を悩ますスタッフだが七試合になったことで予定以上出場出来るので安心をした。スタッフで検討の結果、男子は三チームに分別し各チームにリーダーをおき国内の強化練習の時からチームづくりをした。

役員選手共々意志の疎通も良くチームづくり或は行動や生活も非常にスムーズに運営が出来た。

ハンドボールのみならず社会生活を営む面においても多大な経験を得られたものと確信する。社会見学に於いては、ドイツでのハイデルベルグの学生の街やハイデルベルグ城、マールブルグの十二世紀の建築物等に学生達は目を光らせて見学したものである。特に、一二三〇年に着工を始め一〇〇年かかって建てられたエリザベス教会等は学生からも感嘆の声があげられていた。毎年のことながら、一番困惑するのは言葉の壁であるが、さすが若さの特権でいろいろな場でいろいろな人々と積極的に親交を深めていた。（昨年或は一昨年遠征に参加した者で現在文通している者もいる。）

戦績よりも内容を重視したく又個々の技術や精神力さらに対応能力を高める為に全員一丸となり対戦したものである。この結果は各チームに戻ってから練習の場で肉付けして各種の大会でその成果が見られるものと期待するものである。

対戦成績は後期の通りだが西独では男子は四勝二敗一分だが内容のある試合経験が出来た。女子の今年度は、一部リーグの試合期間中だった為に対戦相手に恵まれず？……六戦全勝だった。毎年のことながら女子には細かな動き、早い動きに観客から素晴らしい声援を受けた。

フランスに於いてはパリ選抜との対戦だったが、男女共々パリ在住のフランスナショナルとジュニア選手でチーム構成されておりハンドボール協会の力の入れ方も並々ならぬものが伺えた。ドゴール体育館も満員となり観客も一体となり盛り上りのあるゲームであった。これがハンドボールなのだと選手達も感じたに相違ない。

尚次回からの関東学生選抜ヨーロッパ遠征は試合のみならず西独国内における一部リーグの参加チームとの合同合宿を計画しておりさらにハンドボール競技の発展向上に目を向けている。

（日体大女子監督）

ヨーロッパ球信

早川 清孝
（日本体協海外研修コーチ・在西ドイツ）

難しい五輪の「個別参加」

今冬の西ドイツは、気温24度といった異常高温の日もあれば、雪が降りつづくといった日もあってその寒暖の激しさは驚くばかりです。

さて、カーター・米大統領の声明に端を発したモスクワオリンピックのボイコット問題は、日本でも大きな議論が巻きおこっていると伝えられますが、西ドイツでも毎日のようにテレビ、ラジオ新聞などが、この問題を採りあげています。

西ドイツも、日本同よう、アメリカからの〝圧力〟がかなり強いようで、5月には、結局、ボイコットを打ち出すのではないでしょうか。

そうなると、モスクワのハンドボールは、現世界チャンピオンを欠くという淋しいものになってしまいます。

ところで、こちらで聞いておりますと、日本ではNOC（JOC）が、競技団体独自で自主的参加、あるいは「個別参加」の方法もあるとして、選手を励ましているということですが、ヨーロッパにおりますと、はたして現実に、そのような方法が可能かどうか、かなり疑わざるを得ません。

グロスバルスタット2連勝

さて、ハンドボール界の動きをお伝えしましょう。

既報のバルト海カップのあと、大きなナショナルチームのトーナメントは、ほとんどなく、ソ連がハンガリーに2連勝、スイスがチュニジアに2連勝、東ドイツが日本に2連勝したなどがモスクワ組の主な動き、もっぱらファンの目は、ヨーロッパカップに注がれていました。

特に、西ドイツは、ヨーロッパカップに出ていたTV・グロスバルスタットとヨーロッパ・カップオブ・カップスの代表、おなじみのVfL・グンメルスバッハが好調に勝ち進んだため、大きな関心を呼びました。

ヨーロッパ・カップの決勝は、グロスバルスタットが、バルル・レイキャビクを、ミュンヘンに迎え、九千人のファンを集めて行われましたが、2連勝を目指すグロスバルスタットが、クルースピースや、名GKホフマンら攻守の柱の大活躍で21―12と快勝、文句ない強さを示しました。

グロスバルスタットのホームタウンは、フランクフルトに近いエイゼンフェルト市ですが、この試合のために、三千人をこす地元ファンがミュンヘンへ押しかけ、優勝後、コート上にくりひろげた熱狂ぶりは大変なもので、この国のハンドボール熱のすごさを、改めて感じさせました。

アリカンテ鮮やかな優勝

一方、カップ・オブ・カップスは、グンメルスバッハ×カルピサ・アリカンテ（スペイン）という初顔合せの決勝でした。

まず、第一戦は、アリカンテのホームコートで行われ、アリカンテは、相手のエース、ヴンデルリッヒにスタートから密着マーク、この作戦がみごとに成功して20―15で先勝しました。

第二戦は、ヨーロッパ・ハンドボールのメッカ、ドルトムントのウエストハーレンで行われましたが、グンメルスバッハが、5点のハンデをどう取り返すかが興味となり、一万三千人という記録的な大観衆が集まりました。

アリカンテは、ホームゲームで成功したヴンデルリッヒへのマークをこの試合でも採り、グンメルスバッハは、初めから苦しい試合ぶり。

この精神的なハンデのためか、いつになくミスの多い試合運びで前半は9―8とわずか1点をリードしただけでした。

後半になって、ようやく、グンメルスバッハの攻撃にリズムが出て、一時は14―10、15―11としてファンを沸かせましたが、なにぶんにも、決め手のヴンデルリッヒの動きが封じられ、左腕フェイも負傷をおしての出場のため、精彩を欠き、どうしても「あと1点」がとれず、18―16で勝ったものの2試合合計36―33でアリカンテの初優勝となりました。

ホーム・アンド・アウエイ法式のこちらの試合では、いかにホームゲームで大量リードを奪うかが勝利の条件です。

それを読んでの試合観戦のコツを、ファンはよく知っていて、興奮が興奮を呼ぶことになります。

スペイン代表の優勝は、5年前のバロンマノ・グラノリエルスについで2度目ということですが、フランクフルトでの試合も、終始精気にあふれた攻防で、チャンピオンにふさわしい力を示したのはみごとでした。

一部～三部のカップ戦

一方、女子は、ヨーロッパカップがラドニッキ・ベルグラード（ユーゴ）、カップ・オブ・カップスがイスクラ・パルチザンスカ（チェコ）の優勝に決まりました。

今シーズンは、男女とも、オリンピックイヤーということでソ連東ドイツなどが代表チームを送らず、その意味では、興味が半減しました。

ナショナル同士の試合のすさまじさは、自分自身も何回か経験していますが、クラブ同士の対抗戦は、ファンの色合いが土地柄を表して、また、別の面白さがあります。

十四クラブによる西ドイツ・リーグ（ブンデス・リガ）は、その熱狂の上に立って、今シーズンも大盛況ですが、どうやらTV・グロスバルスタットの2連勝が固そうです。

リーグと併行して、一部から三部までのチームが参加するカップ戦という名のトーナメント大会が開かれていますが、この方は、グロスバルスタット、グンメルスバッハ、FA・ギョッピンゲン、TUS・ネッテルスタットの人気4チームが準決勝に勝ちあがっています。

次回は、グロスバルスタット×アリカンテの「ヨーロッパ・ゴールデンカップ」と、西ドイツカップの話題をお伝えするつもりです。（筆者はミュンヘンオリンピック日本代表選手、日体大OB）

各地の記録

大同、本田技ゆずらず

第19回東海室内選手権は、2月17日岐阜県民体育館に、東海4県の代表が集まりトーナメントで行われた。

男子は、7年連続大同特殊鋼（愛知）×本田技研鈴鹿（三重）の決勝となり、本田の健闘から大激戦をくりひろげ、大同は残り5分13―15と苦しかったが、辛くも同点に持ちこみ、引き分け、両チーム優勝（史上初）になった。大同は6年連続9度目、本田は6年ぶり2度目のタイトル。

一方、女子も予想どおり、国内を代表するジャスコ（三重）×ブラザー工業（愛知）の決勝から、ジャスコが序盤の好スタートを活かし5年連続優勝を飾った。

なお、この大会は、ことしもNHKテレビによって東海地域に中継放送された。

▽男子1回戦（＝準決勝）

大同特殊鋼（愛知） 35（19―1 16―0）1 高山ク（岐阜）

本田技研鈴鹿（三重） 37（19―9 18―6）15 静岡教員団（静岡）

▽同決勝

大同特殊鋼 15（7―6 8―9）15 本田技研鈴鹿

引き分け

▽女子1回戦（＝準決勝）

ジャスコ（三重） 27（11―3 16―1）4 城北ク（静岡）

ブラザー工業（愛知） 30（16―3 14―0）3 腕満会（岐阜）

▽同決勝

ジャスコ 14（8―4 6―4）8 ブラザー工業

女子で大和銀行4連勝

第9回（女子第4回）近畿実業団選手権は、昨秋11月神戸など関西各地で男子1部5、2部6、女子4チームが参加して行われ、男子は1部が丸善石油下津（和歌山）の2連勝、同2部は美津濃（大阪）女子は大和銀行（大阪）の4連勝に終った。

▽男子1部

丸善石油下津（和歌山） 34―16 川崎重工（兵庫）

神戸製鋼（兵庫） 15（分）15 大阪ガス（大阪）

丸善石油下津 20―19 日鉄建材（大阪）

神戸製鋼 35―13 川崎重工

大阪ガス 21―15 日鉄建材

川崎重工 26―18 日鉄建材

丸善石油下津 24―17 大阪ガス

神戸製鋼 20―16 日鉄建材

大阪ガス 29―9 川崎重工

丸善石油下津 28―17 神戸製鋼

【順位】①丸善石油下津4戦全勝②大阪ガス・神戸製鋼2勝1分1敗④川崎重工1勝3敗⑤日鉄建材

【2部順位】①美津濃（大阪）5戦全勝②住友銀行（大阪）・住友金属（和歌山）3勝2敗④三和銀行（大阪）2勝3敗⑤日立マクセル（大阪）・カネカ（兵庫）1勝4敗

▽女子

大和銀行（大阪） 28―2 住友銀行（大阪）

大和銀行 25―3 大和銀行B（大阪）

大和銀行 21―7 和歌山県商工信用組合（和歌山）

大和銀行B 22―2 住友銀行

和歌山県商工信組 33―1 住友銀行

和歌山県商工信組 11―9 大和銀B

【順位】①大和銀行3戦全勝②和歌山県商工信用組合2勝1敗③大和銀行B1勝2敗④住友銀行3敗

境港市クが4回目

▼第10回鳥取室内選手権（2月）

▽男子準々決勝

関金ク 16―12 境工高

中部ク 14―10 境港市役所

鳥取大 6―8 倉吉ク

境港市ク 棄権 境高

▽同準決勝

境港市ク 18―12 鳥取大

関金ク 13―12 中部ク

▽同決勝

境港市ク 16（5―7 11―3）10 関金ク

▽女子1回戦（2試合）

倉吉西高 17―2 米子東高

米子南商高 16―5 倉吉産業高

▽同準決勝

米子南商高OG 9―7 倉吉西高

米子南商高 10―5 倉吉ク

▽同決勝

米子南商高 7（5―5 2―2）7 米子南商高OG

7MTコンテスト1―0で米子南商高の勝ち

新日鉄大分、好調示す

▼大分県総合室内選手権（1月・大分）

▽男子準々決勝

大波電波高OB 24―17 屋山ク

日豊ク 15―9 愛球会

新日鉄大分 19―13 鶴崎工高B

大分電波高 12―10 鶴崎会

▽同準決勝

新日鉄大分 25―17 日豊ク

大分電波高 20―12 大分電波高OB

▽同決勝

新日鉄大分 23（13―9 10―5）14 大分電波高

▽女子1回戦（3試合）

大分東高 16―8 雄城台高

佐賀関高 14―1 雄城台高OG

大分東ジュニア 17―6 別府ク

▽同準決勝

大分東シニア 22―12 大分東高

大分東ジュニア 15―6 佐賀関高

▽同決勝

大分東シニア 21（11―6 10―9）15 大分東ジュニア

名大ク、韓国円光クと定期戦

名古屋大OB、現役による「名大ク」（愛知）は、このほど韓国の円光大クと定期戦を結ぶことになったと発表した。

毎年交互に遠征しあい、2試合以上を行うというもので、第1回の今年は、6月11日から15日まで名大クが遠征する。

名大ク関係者は「学連、実連などによる日韓交流がマンネリ化し今後は、単独チームによる個別交流に移行していくものと思われる

その先鞭として、円光大クの協力を得て定期戦が結ばれたことは他チームの指針にもなろう。経費は滞在費だけ招待側が負担する」といっている。

横須賀協会が20周年

神奈川県の横須賀ハンドボール協会は、このほど創立20周年を迎え、2月10日記念式典と記念トーナメントを行なった。

記念式典では、これまでの協会発展に功績のあった3団体と、個人5氏を表彰、そのほか、3団体に感謝状を贈った。

（表彰者）団体・自衛隊久里浜ク、横須賀学院高男子チーム、同女子チーム。

個人・福元司、白井春雄、宮崎宏、浅木建十郎、越川兵衛（敬称略）

（感謝状贈呈）陸上自衛隊通信学校、陸上自衛隊少年工科学校、横須賀学院高校。

興奮再現。

BIG SOUNDS
実用最大出力4.2W
TRK-8030 ¥43,800

持ち運んで楽しむか

クリアでナチュラルな音質の実用最大出力4.2W(2.1W＋2.1W、EIAJ/DC)のパワー。12cmウーハー(中低音域用)と3.5cmツイーター(高音域用)採用のスピーカー・システムが再現するリアルなパワーサウンド、心ゆくまでお楽しみください。

- ●FM／AM2バンドラジオつき
- ●(クロム／ノーマル)テープセレクター採用
- ●フルオートストップ
- ●外部スピーカー端子つき(別売り APS-80)使用
- ●ラインイン、ラインアウト端子、マイク端子(R用、L用各1個)つき

ステレオ パディスコ8030 TRK-8030 ¥43,800

●電源DC：9V(単1×6) AC：100V 50/60Hz カーアダプター(別売りD-70) ●大きさ 幅41.2×高さ25.6×奥行12(cm) ●重さ 5.0kg(乾電池含む)

システム パディスコ

組んで楽しむか

パディスコ8030はシステムアップできるラジオカセット。専用外部スピーカー(APS-80)の接続により、迫力あるステレオ・サウンドがさらに倍増。また、プレヤー(HT-320)を接続すればレコード音楽も楽しめます。(MM形カートリッジイコライザー MCE-70が必要)

●専用外部スピーカー、APS-80 別売り 2本セット¥11,800
●レコードプレヤーHT-320 別売り ¥25,800(レコードプレヤーを接続するにはMM形カートリッジイコライザー〈MCE-70〉別売り ¥4,500が必要です)

▲上の写真はステレオパディスコ8030をシステムアップしたものの一例です。
★カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。
★商品のお問合せ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

品質を大切にする〈技術の日立〉
HITACHI CASSETTE RECORDER

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111
日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

★「日立カセットレコーダーの保証書」は必ずお受けとりください。お買い上げの際に、販売店名、ご購入年月日が記入されているかを、お確かめになり、大切に保存してください。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一八五号
昭和四十年十[illegible]七日 昭和五五年 四月二十五日印刷
第三種郵便物認可 昭和五五年 五月 一 日発行
発行所
日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼 発行人 荒川清美
定価三百五拾円
(年間購読料 三千三百円)